



令和 6 年度 東京湾環境一斉調査 調査結果

令和 7 年 3 月

東京湾再生推進会議モニタリング分科会
九都県市首脳会議環境問題対策委員会水質改善専門部会
東京湾岸自治体環境保全会議
東京湾再生官民連携フォーラム東京湾環境モニタリングの推進プロジェクトチーム

目 次

1.	調査概要	2
2.	調査参加機関	4
3.	調査地点	7
4.	気象・海象の状況	9
5.	東京湾の水質の状況	10
5-1.	令和6年度の結果	10
5-2.	過去との比較	14
6.	河川・湖沼の調査結果	27
7.	東京湾に流入する主な河川の状況	30
8.	生物調査の実施実績	43
8-1.	干潟調査	43
8-2.	その他の調査	52
8-3.	「東京湾生物情報とりまとめおせっ会」による取組	55
9.	環境啓発活動等のイベント開催実績	56
10.	用語解説	64
11.	問い合わせ先等	68

参考資料

- I 調査レポート（干潟調査）
- II 調査レポート（干潟以外調査）
- III 調査レポート（「東京湾生物情報とりまとめおせっ会」による取組）

はじめに

国の関係機関や地方公共団体、教育・研究機関、企業、市民団体などが連携し、平成 20 年度から実施してきた東京湾水質一斉調査は、平成 25 年度より東京湾環境一斉調査と名称を変更いたしました。東京湾水質一斉調査の開始から数えますと、本調査は 17 回目の実施となります。東京湾環境一斉調査は、「多様な主体が協働しモニタリングを実施することにより国民・流域住民の東京湾再生への関心を醸成する」ほか、「東京湾の全域及び陸域を対象とした一斉での調査を通じ、東京湾の汚濁メカニズムを解明する」ことを目的として実施されております。本年度も東京湾及び流域の環境に関心を寄せる多くの方々に御参加いただき、多数の貴重なデータを得ることができました。

令和 5 年度調査と同様、より多くの皆様に御参加いただくために、生物調査については事前募集で登録されていない調査についても報告を受け付けました。本報告書では、東京湾の全域及び流域における令和 6 年 8 月の水質の状況と令和 6 年度に実施された生物調査の結果及び環境啓発活動等のイベントの実施報告について掲載しております。

本報告書が、調査に参加された方々をはじめ、東京湾に関心をお持ちの皆様にとっての一助となり、また、より多くの方に関心を持っていただくきっかけとなれば幸いです。

○本報告に掲載のコンター図の作成方法について

本報告では、海域の調査結果（①水温分布、②塩分分布、③溶存酸素量（DO）分布、④化学的酸素要求量（COD）分布、⑤透明度分布）についてコンター図を作成し、本文中に図として報告しています。

これらのコンター図の作成方法について以下に示します。

東京湾環境一斉調査の調査地点は、東京湾全域で位置的に偏りがあるため、コンター図を作成するには一定間隔の格子点に、近くの調査地点のデータを空間的に内挿補間することで作成します。この空間補間は、観測地点の観測データに重みをつけ、離れるに従い重みを小さくして未計測の格子点の観測値を推定します。空間補間により格子点上の観測値を推定し、等高線のようなコンター図を作成しています。

内挿法には、クリギング法という手法を用いています。クリギング法はサンプル数が少ないデータに適した手法です。

1. 調査概要

(1) 主催

○東京湾再生推進会議モニタリング分科会

- ・国土交通省 ・国土交通省関東地方整備局 ・海上保安庁
- ・第三管区海上保安本部 ・水産庁 ・環境省※ ・埼玉県
- ・千葉県 ・東京都 ・神奈川県 ・横浜市 ・川崎市
- ・千葉市 ・さいたま市

○九都県市首脳会議環境問題対策委員会水質改善専門部会

- ・埼玉県 ・千葉県※ ・東京都 ・神奈川県 ・横浜市
- ・川崎市 ・千葉市 ・さいたま市 ・相模原市

○東京湾岸自治体環境保全会議

- ・東京都※ ・江戸川区 ・大田区 ・江東区 ・品川区 ・中央区
- ・港区
- ・千葉県 ・市川市 ・市原市 ・浦安市 ・木更津市 ・君津市
- ・鋸南町 ・袖ヶ浦市 ・館山市 ・千葉市 ・習志野市 ・富津市
- ・船橋市 ・南房総市
- ・神奈川県 ・川崎市 ・三浦市 ・横浜市 ・横須賀市

○東京湾再生官民連携フォーラム東京湾環境モニタリングの推進プロジェクトチーム

行政関係者、研究者、専門家、漁業関係者、釣人、マリンレジャー関係者、企業関係者、NPO、教育関係者、一般市民等の多数の方々より構成され、東京湾の再生のための連携や協働活動を実施。

※幹事

(2) 後援

一般社団法人 日本経済団体連合会

(3) 調査内容

① 水質調査

【海域】水温、塩分、溶存酸素量（DO）、化学的酸素要求量（COD）、透明度

【陸域】水温、流量、溶存酸素量（DO）、化学的酸素要求量（COD）、透視度

② 生物調査

③ 環境啓発活動等のイベント

(4) 調査日

① 水質調査

令和 6 年 8 月 7 日を調査基準日とし、調査基準日を含む前後数日間を中心に調査を実施しました。

② 生物調査

令和 6 年 7 月から 9 月に実施された生物調査のデータを提供いただきました。

③ 環境啓発活動等のイベント

令和 6 年 7 月から 10 月に実施された水質改善等に関する普及啓発活動を含むイベントの報告をいただきました。

(5) 調査参加機関 170 機関（重複機関含む）

① 水質調査

155 機関

② 生物調査

9 機関

③ 環境保全啓発等イベントの実施

6 機関

(6) 水質調査実施地点数

海域 463 地点、陸域 414 地点 計 877 地点

(7) 生物調査の結果・データ報告数

9 件

(8) 環境啓発活動等のイベント開催数

7 件

2. 調査参加機関

【水質調査データ提供機関】

<企業>72 機関

- ・ AGC 株式会社 AGC 横浜テクニカルセンター
- ・ ENEOS 株式会社 根岸製油所
- ・ ENEOS 株式会社 川崎製油所
- ・ JFE スチール株式会社
- ・ JFE スチール株式会社 東日本製鉄所(京浜地区)
- ・ JFE 鋼板株式会社 千葉製造所
- ・ 曙ブレーキ岩槻製造株式会社
- ・ 旭化成株式会社 製造統括本部 川崎製造所
- ・ 味の素株式会社 川崎事業所
- ・ アルバック成膜
- ・ エア・ウォーター・パフォーマンスケミカル株式会社
- ・ エヌエス環境株式会社 東京支社
- ・ 大阿蘇水質管理株式会社
- ・ 株式会社 ENEOS NUC 川崎工業所
- ・ 株式会社環境管理センター 北関東技術センター
- ・ 株式会社環境テクノ
- ・ 株式会社キミカ
- ・ 株式会社 SUMCO
- ・ 株式会社 J-オイルミルズ 千葉工場
- ・ 株式会社東芝 横浜事業所
- ・ 株式会社日本触媒 川崎製造所 浮島工場
- ・ 株式会社日本触媒 川崎製造所 千鳥工場
- ・ 株式会社日立製作所 中央研究所
- ・ 株式会社プロテリアル 熊谷磁材工場
- ・ 株式会社横浜八景島
- ・ 株式会社レゾナック 基礎化学品事業部 川崎事業所
- ・ 株式会社レゾナック 秩父事業所
- ・ 株式会社レゾナック 横浜事業所
- ・ 株式会社ロッテ 浦和工場
- ・ 川口薬品株式会社 浦和事業所
- ・ キッコーマン食品株式会社 野田工場 製造第1部
- ・ キッコーマン食品株式会社 野田工場 製造第2部
- ・ キッコーマン食品株式会社 野田工場 製造第3部
- ・ 麒麟麦酒株式会社 横浜工場
- ・ 京葉ユーティリティ株式会社
- ・ コアレックス三栄株式会社
- ・ 合同会社オフショアテクノロジーズ
- ・ 新東日本製糖株式会社
- ・ 住友化学株式会社 千葉工場(袖ヶ浦地区)
- ・ セイコーインスツル株式会社 高塚事業所
- ・ セントラル硝子株式会社 川崎工場
- ・ 太平洋製糖株式会社
- ・ ダイワ化成株式会社
- ・ 宝酒造 松戸工場
- ・ 電源開発株式会社 磯子火力発電所
- ・ 東亜建設工業株式会社
- ・ 東亜合成株式会社 川崎工場
- ・ 東亜合成株式会社 横浜工場
- ・ 東亜石油株式会社
- ・ 東京ガス株式会社 扇島 LNG 基地
- ・ 東京ガス株式会社 袖ヶ浦 LNG 基地
- ・ 東京ガス株式会社 根岸 LNG 基地
- ・ 東芝エネルギーシステムズ株式会社 浜川崎工場
- ・ 東芝プラントシステム株式会社 川崎事業所
- ・ 東洋水産株式会社 埼玉工場
- ・ 流山キッコーマン株式会社
- ・ 日油株式会社 川崎事業所
- ・ 日産自動車株式会社 本牧専用埠頭
- ・ 日産自動車株式会社 横浜工場
- ・ 日鉄溶接工業株式会社 習志野工場
- ・ 日本製鉄株式会社 技術開発本部
- ・ 日本製鉄株式会社 東日本製鉄所 君津地区
- ・ 日本冶金工業株式会社
- ・ 日本製紙クレシア株式会社 東京工場
- ・ 日本ゼオン株式会社 川崎工場
- ・ 日本乳化剤株式会社 川崎工場
- ・ 日化メンテナンス株式会社
- ・ 北海製罐株式会社 岩槻工場
- ・ 三菱ケミカル株式会社 関東事業所 鶴見地区
- ・ 森永乳業株式会社 東京多摩工場
- ・ 山根技研株式会社
- ・ 雪印メグミルク株式会社 野田工場

<市民団体>2 機関

- ・ NPO 法人
ふるさと東京を考える実行委員会
- ・ NX ホールディングス／ヴォース・ニッポン

<教育・研究機関>1 機関

- ・公益財団法人 日本海事科学振興財団
船の科学館

<その他>2 機関

- ・水辺のクリエイターズ

- ・一般社団法人 埼玉県環境検査研究協会

<地方公共団体>69 機関

- ・埼玉県
- ・埼玉県 荒川右岸下水道事務所
- ・埼玉県 荒川左岸南部下水道事務所
- ・埼玉県 荒川左岸北部下水道事務所
- ・埼玉県 中川下水道事務所
- ・さいたま市
- ・さいたま市 建設局 下水道部 下水道維持管理課
- ・川越市 環境部 環境対策課
- ・熊谷市
- ・川口市
- ・秩父市
- ・所沢市
- ・高坂浄化センター
- ・市野川浄化センター
- ・春日部市
- ・狭山市
- ・草加市
- ・越谷市
- ・坂戸、鶴ヶ島下水道組合
- ・日高市
- ・毛呂山越生鳩山公共下水道組合
- ・千葉県
- ・千葉県水産総合研究センター 東京湾漁業研究所
- ・印旛沼下水道事務所
- ・江戸川下水道事務所
- ・千葉市 環境規制課
- ・千葉市 中央浄化センター
- ・千葉市 南部浄化センター
- ・市川市 環境部 生活環境保全課
- ・市川市 下水道部 河川・下水道管理課
- ・船橋市 環境部 環境保全課
- ・船橋市 下水道部 下水道施設課
- ・館山市
- ・館山市 建設環境部 都市計画課
- ・木更津市 環境部 環境政策課
- ・木更津市 都市整備部 下水道推進室
- ・松戸市 環境部 環境保全課
- ・松戸市 建設部 下水道維持課
- ・習志野市 企業局
- ・習志野市 都市環境部 環境政策課
- ・市原市 環境部 環境管理課
- ・市原市 上下水道部 下水道施設課
- ・君津市
- ・君津富津広域下水道組合
- ・浦安市
- ・袖ヶ浦市
- ・東京都 環境局 自然環境部 水環境課
- ・東京都 下水道局 計画調整部 事業調整課
- ・東京都 下水道局 流域下水道本部 技術部 計画課
- ・中央区
- ・台東区
- ・江東区
- ・大田区
- ・北区
- ・板橋区
- ・八王子市
- ・町田市 環境資源部 環境共生課
- ・町田市 下水道部水再生センター
- ・西東京市
- ・神奈川県 環境課
- ・神奈川県 水産技術センター
- ・横浜市 下水道河川局 水質課
- ・横浜市 港湾局
- ・横浜市 みどり環境局
- ・川崎市 環境局 環境対策部 環境保全課
- ・川崎市 上下水道局 下水道部 下水道水質課
- ・横須賀市 上下水道局
- ・横須賀市 環境保全課
- ・三浦市

<国>9 機関

- ・ 関東地方整備局 荒川下流河川事務所
- ・ 関東地方整備局 荒川上流河川事務所
- ・ 関東地方整備局 江戸川河川事務所
- ・ 関東地方整備局 京浜河川事務所
- ・ 関東地方整備局 京浜港湾事務所
- ・ 関東地方整備局 東京空港整備事務所
- ・ 関東地方整備局 横浜港湾空港技術調査事務所
- ・ 関東地方整備局 東京湾口航路事務所
- ・ 関東地方整備局

【生物調査データ提供機関】

- ・ 浦安市三番瀬環境観察館
- ・ 大田区環境マイスターの会
- ・ 東京都板橋区
- ・ 国土交通省関東地方整備局 東京空港整備事務所
- ・ 横浜港湾空港技術調査事務所 江戸前アサリわくわく調査
- ・ 横浜港湾空港技術調査事務所 外来海洋生物観察会
- ・ 横浜港湾空港技術調査事務所 釣り調査
- ・ 横浜市港湾局

【環境啓発等イベント実施機関】

- ・ 旭化成株式会社 製造統括本部 川崎製造所 環境安全部
- ・ 日本製鉄株式会社 技術開発本部
- ・ 株式会社日本触媒 川崎製造所
- ・ 横浜港湾空港技術調査事務所
- ・ 東亜合成株式会社 川崎工場
- ・ 台東区役所 環境課

参加機関数は、表 2-1 のとおり推移しています。

表 2-1 参加機関数の推移

	第 12 回	第 13 回	第 14 回	第 15 回	第 16 回	第 17 回
一斉調査 基準日	令和元年 8 月 7 日	令和 2 年 8 月 5 日	令和 3 年 9 月 16 日	令和 4 年 8 月 3 日	令和 5 年 8 月 9 日	令和 6 年 8 月 7 日
企業	96	83	70	74	78	76
市民団体	25	11	5	14	11	3
教育・研究機関	10	5	7	5	2	1
その他	0	4	6	3	1	2
地方公共団体	68	66	64	72	72	74
国	11	8	9	14	15	14
合計	210	177	161	182	179	170

※令和 2 年度の調査から、水質調査・生物調査・環境啓発活動等のイベントへデータ提供いただいた機関は、それぞれ 1 参加機関と登録しています。(過年度の調査には、同一部署内の複数のグループからそれぞれ個別の申込先に提供があった場合に 1 参加機関とまとめた事例が含まれています。)

※水質調査・生物調査・環境啓発活動等のイベントのうち複数の調査に参加した機関は、それぞれの調査ごとに計上しています。

3. 調査地点

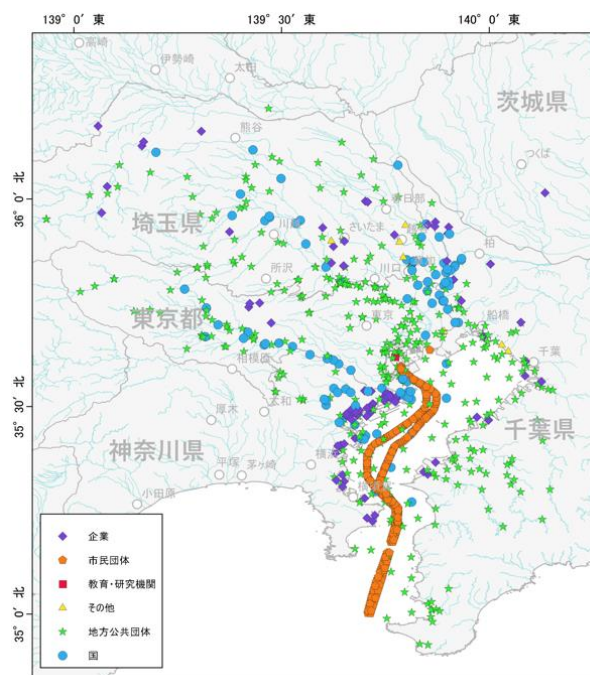
水質調査は、海域 463 地点、陸域 414 地点、計 877 地点における調査データが集まりました。水質調査の調査地点数は、表 3-1 のとおり推移しています。東京湾環境一斉調査地点の広域図（図 3-1）と東京湾周辺の詳細な調査地点（図 3-2）を調査機関別に示します。

なお、陸域の調査については、一斉調査日以外の複数の日程にて調査が実施された地点が多く含まれることから、統一的なデータとして取り扱うことが困難であったため、作図は行わず、提供いただいたデータを掲載します。

表 3-1 過去 5 年間の実施機関別調査地点数※

	第 12 回		第 13 回		第 14 回		第 15 回		第 16 回		第 17 回	
一斉調査 基準日	令和元年		令和 2 年		令和 3 年		令和 4 年		令和 5 年		令和 6 年	
	8 月 7 日		8 月 7 日		9 月 16 日		8 月 3 日		8 月 9 日		8 月 7 日	
海域／ 陸域	海域	陸域	海域	陸域	海域	陸域	海域	陸域	海域	陸域	海域	陸域
企業	59	52	53	52	39	52	46	43	35	61	44	48
市民団体	2	10	310	1	303	1	311	1	1	4	283	0
教育・研究 機関	50	0	42	0	49	6	8	0	4	0	1	0
その他	102	286	0	1	0	5	0	1	0	1	0	4
地方公共 団体	102	286	119	302	118	270	147	282	134	285	109	288
国	31	57	35	74	39	80	61	87	48	74	26	74
計	244	405	559	430	548	414	573	414	222	425	463	414
合計	1,091		989		962		987		647		877	

※調査地点数には一斉調査基準日でない日に行われた調査地点を含みます。



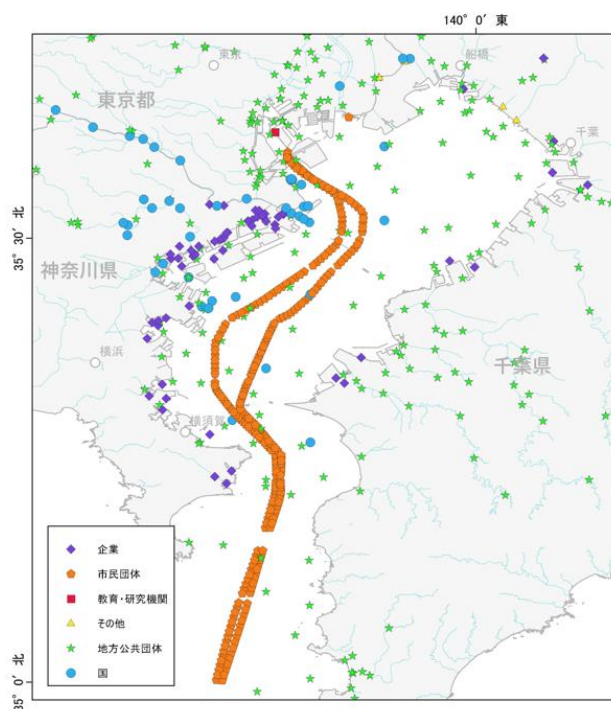
調査基準日 8 月 7 日以外に以下の実施日を含む全地点の水質データを元に作成

(海域) 8 月 1 日、8 月 5 日、8 月 6 日、8 月 8 日、8 月 9 日、8 月 14 日、8 月 15 日、8 月 20 日

(陸域) 8 月 1 日、8 月 2 日、8 月 5 日、8 月 6 日、8 月 8 日、8 月 9 日、8 月 12 日、8 月 13 日、8 月 14 日、8 月 19 日、8 月 20 日、8 月 21 日、8 月 22 日、8 月 23 日、9 月 9 日

背景地図：国土地理院発行の「数値地図（国土基本情報）」をもとに(株)ケンズシステムが加工、国土交通省国土政策局「国土数値情報（河川データ）」をもとに(株)ケンズシステムが編集・加工

図 3-1 令和 6 年度東京湾環境一斉調査地点図（広域図）



調査基準日 8 月 7 日以外に以下の実施日を含む全地点の水質データを元に作成

(海域) 8 月 1 日、8 月 5 日、8 月 6 日、8 月 8 日、8 月 9 日、8 月 14 日、8 月 15 日、8 月 20 日

(陸域) 8 月 1 日、8 月 2 日、8 月 5 日、8 月 6 日、8 月 8 日、8 月 9 日、8 月 12 日、8 月 13 日、8 月 14 日、8 月 19 日、8 月 20 日、8 月 21 日、8 月 22 日、8 月 23 日、9 月 9 日

背景地図：国土地理院発行の「数値地図（国土基本情報）」をもとに(株)ケンズシステムが加工、国土交通省国土政策局「国土数値情報（河川データ）」をもとに(株)ケンズシステムが編集・加工

図 3-2 令和 6 年度東京湾環境一斉調査地点図（東京湾周辺）

4. 気象・海象の状況

令和6年度東京湾環境一斉調査基準日（令和6年8月7日）前後の気象・海象状況として、アメダス（東京、羽田、横浜、千葉）の観測データ（平均気温、降水量、日射時間、時間平均風速）と潮位（東京）を図4-1に示します。調査基準日当日は、3地点とも平均気温30℃程度で、降雨量が東京で28mm/day、横浜で2mm/day、千葉で21mm/day程度でした。日射時間は東京と千葉で4時間、横浜で8時間程度でした。また、当日は南方向～東方向から風が吹いていました。

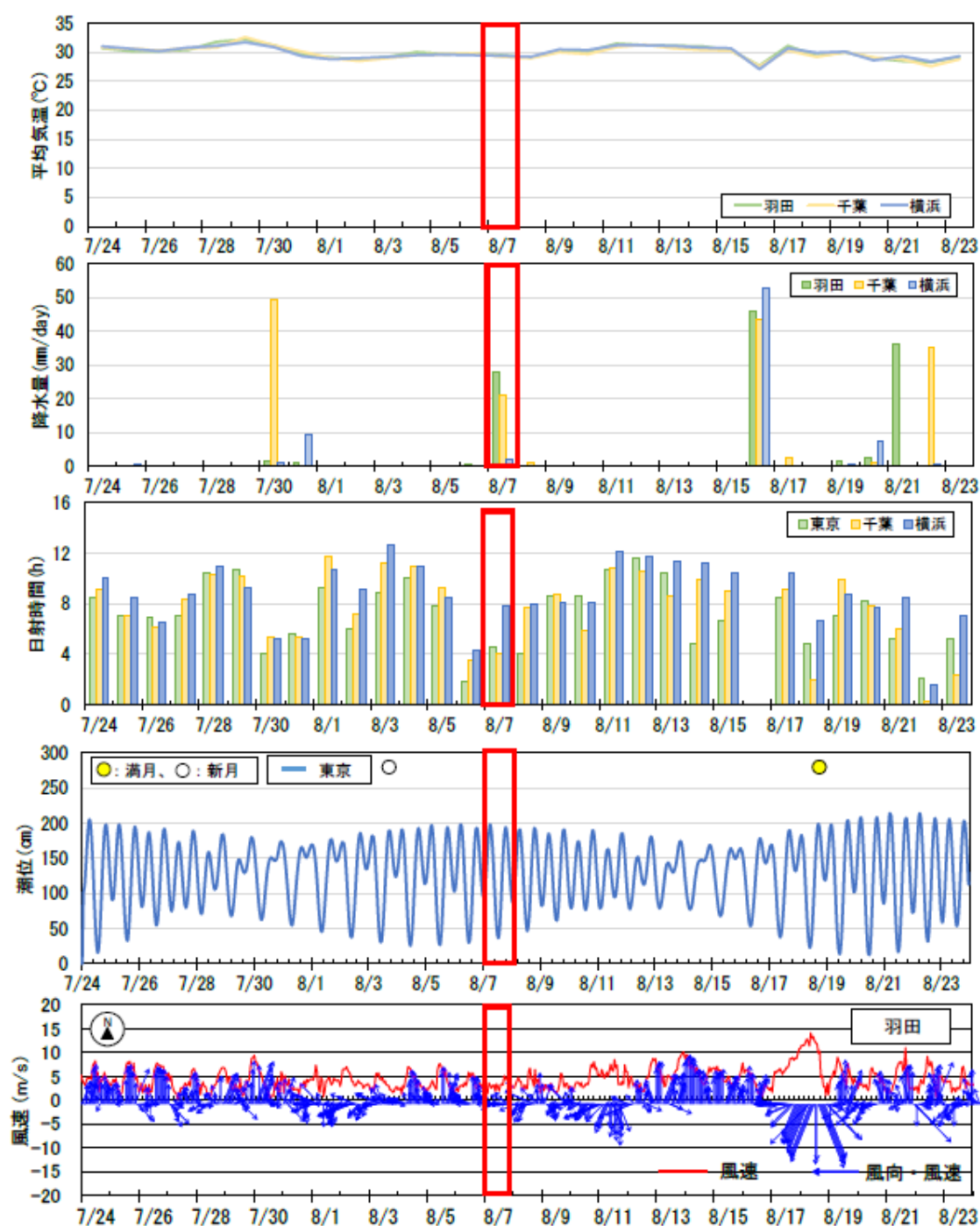


図4-1 令和6年度の調査基準日前後の気象・海象状況
（ ：東京湾環境一斉調査基準日）

5. 東京湾の水質の状況

5-1. 令和6年度の結果

令和6年度東京湾環境一斉調査基準日（令和6年8月7日）と基準日の前後1日を含めた3日間の水温、塩分、溶存酸素量（DO）、化学的酸素要求量（COD）、透明度の平均を図5-1から図5-5に示します（令和6年度調査については、基準日における観測データが例年より少なかったため、基準日前後1日を含めた3日間の平均図を示しています。）。なお、図3-1の調査地点のうち、調査基準日（8月7日）と基準日の前後1日に調査が行われ、かつ測定深度が表層、中層、底層の基準水深（表層：水深1mまで、中層：水深の半分から±1m、底層：海底上1mまで）に合致した地点のみを白い点で示しています。

また、調査地点は、東京湾全域で位置的に偏りがあるため、クリギング法により、一定間隔の格子点に、近くの調査地点のデータを空間的に内挿補間することで作図しています（P.1参照）。

① 水温（図5-1）

水温分布を図5-1に示します。表層の水温は、東京湾全域で27℃程度以上を示していました。中層では、湾口部から湾央部の水深が深い海域で22～24℃と低く、東京側の沿岸部及び湾奥部が27～31℃と高くなっていました。底層では、湾口部の水深が深い海域で19～21℃と低くなっていました。

② 塩分（図5-2）

塩分分布を図5-2に示します。表層の塩分は、湾口部から湾奥部に向かうに従って低くなる傾向が見られました。特に、河口付近の表層で低い塩分が見られました。これは、調査日当日の降雨の影響が考えられます。中層では、湾口部の千葉側で高いエリアが見られ、湾奥部では隅田川、荒川の河口付近で低い分布が見られました。底層では、湾口部から湾央部にかけて水深が深い海域で高く、湾奥部では沿岸域に向かうに従って徐々に低くなる傾向が見られました。

③ 溶存酸素量（DO）（図5-3）

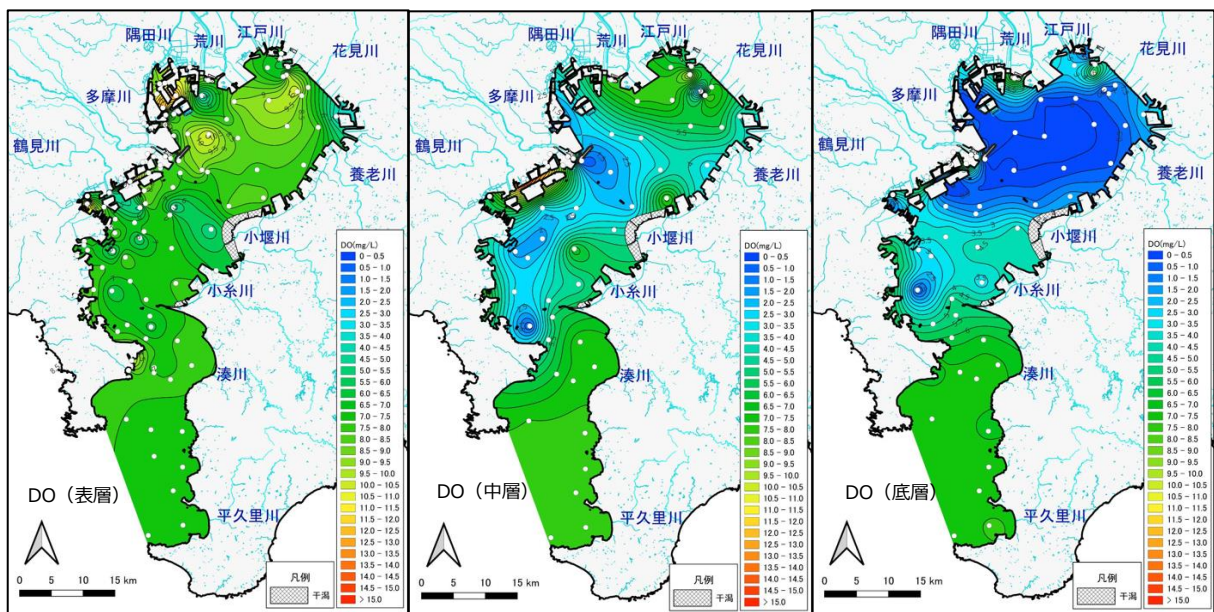
溶存酸素(DO)分布を図5-3に示します。今年度のDOは特異的で、貧酸素水塊が湾奥だけでなく、金沢八景沖でも発生していました。表層のDOは、湾奥部の隅田川河口部で溶存酸素量が高いエリアが見られました。中層では、貧酸素水塊（DOが3mg/Lを下回った水塊）が湾央部に分布していました。底層では、貧酸素水塊（DOが3mg/Lを下回った水塊）が湾央部に分布していました。特に湾奥部では1mg/L以下の水塊が広く分布していました。

④ 化学的酸素要求量（COD）（図5-4）

化学的酸素要求量（COD）分布を図5-4に示します。表層のCODは、湾奥部で高く、湾口部に向かうに従って低くなる傾向が見られました。中層では、湾奥部で高く、湾央部で低くなる傾向が見られました。底層では、湾奥部で高く、湾央部に向かうに従って低くなっていました。

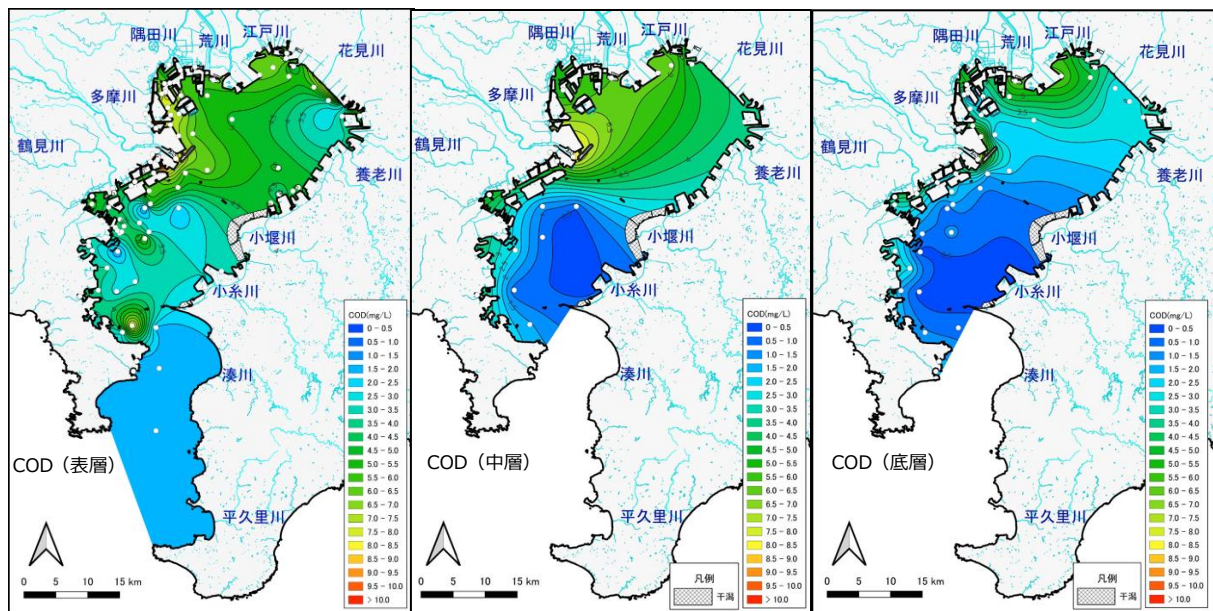
⑤ 透明度（図5-5）

透明度分布を図5-5に示します。透明度は、沿岸と湾央部で低く、湾口部に向かうに従って高くなる傾向が見られました。



表層：水深 1m まで、中層：水深の半分から±1m、底層：海底上 1m までを示す。

図 5-3 令和 6 年における東京湾の 3 日間平均 DO の状況



表層：水深 1m まで、底層：海底上 1m までを示す。

図 5-4 令和 6 年における東京湾の 3 日間平均 COD の状況

5-2. 過去との比較

平成 21 年から令和 6 年までの 8 月の水温、塩分、溶存酸素量 (DO) の調査結果を図 5-6、図 5-7、図 5-8 に示します。なお、平成 26 年と令和 3 年は一斉調査を 9 月に実施したことから、図は掲載していません。また、令和元年と 6 年の調査については、基準日における観測データが例年より少ないため、基準日前後 1 日を含めた 3 日間の平均図を示しています。平均図はより多くの測定点のデータを用いるため空間解像度は上がりますが、刻々と移動する水塊の挙動が平均化されるため、単日の観測結果による水塊の分布範囲と異なって見える場合があることにご留意ください。

① 水温 (図 5-6)

水温の鉛直分布は、多くの観測年において表層から中層、底層へと深度を増すごとに低温となる傾向にあり、成層構造の形成が見られます。

令和 6 年の表層水温は、東京湾全域で 27℃以上を示し、令和 4 年から継続で同様の傾向が見られます。中層では、湾口部から湾央部の水深が深い海域で水温が低く、東京側の沿岸部及び湾奥部が高くなっている平成 22 年、30 年、令和 4 年、5 年に近い分布が見られました。底層では、湾口部から湾奥部に低い水温の分布が見られ、平成 28 年、29 年、30 年、令和 5 年に近い分布が見られました。

② 塩分 (図 5-7)

塩分の鉛直分布については、水温と同じく多くの観測年において表層から中層、底層へ深度を増すごとに高い値を示す成層構造が見られますが、令和 6 年では、その傾向が見られませんでした。

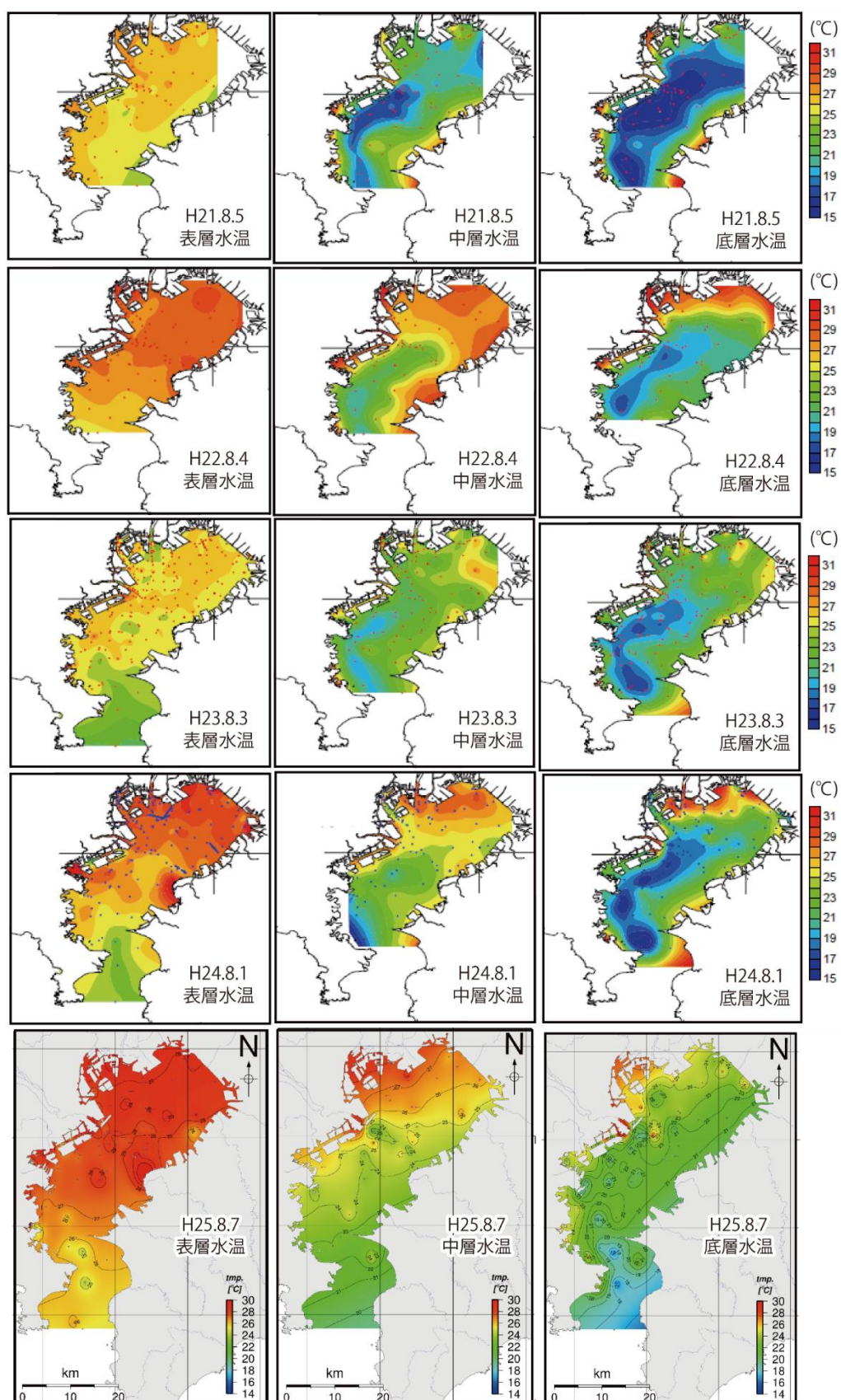
塩分の水平分布については、表層で湾口付近で高く、河川の影響などを受けやすい湾奥・沿岸で低い傾向があります。特に、隅田川と荒川の河口付近はほぼ全ての年の表層において、周囲に比べて低塩分な水塊が観測されています。

令和 6 年の表層塩分は、例年と同じく北西沿岸において低く、底層については、平成 21 年、23~25 年と同じく北西沿岸が低塩分な分布となりました。

③ 溶存酸素量 (DO) (図 5-8)

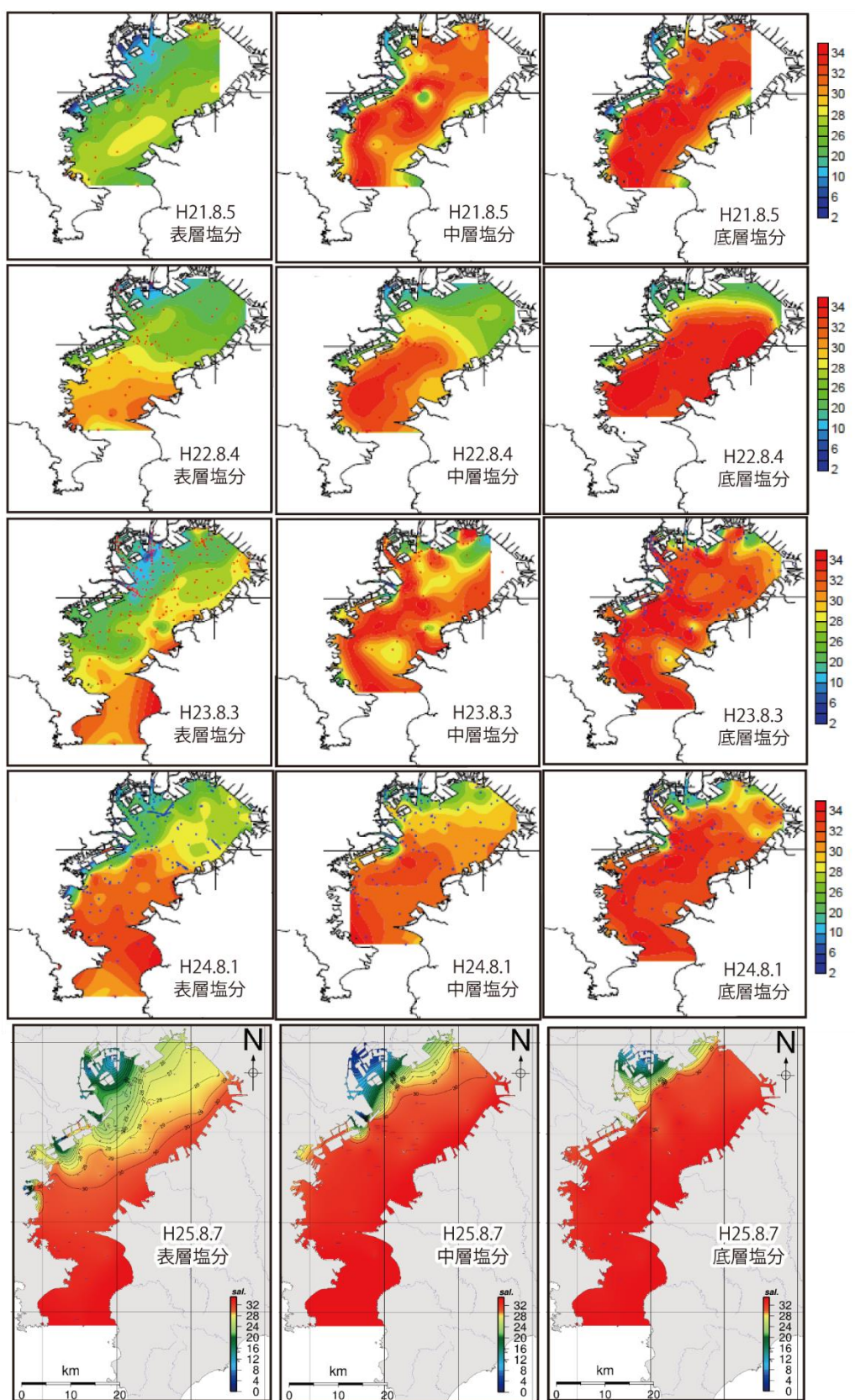
例年表層ではごく一部の観測点、一部の年を除き、6 mg/L を上回っています。底層では、ほぼ全ての年において、湾央部から湾奥部にかけて、3 mg/L 以下の貧酸素水塊が存在していることがわかります。

令和 6 年は、表層においては例年と同様に広い範囲で 6 mg/L を上回りました。底層においては、貧酸素水塊が湾奥だけでなく、金沢八景沖でも発生していました。



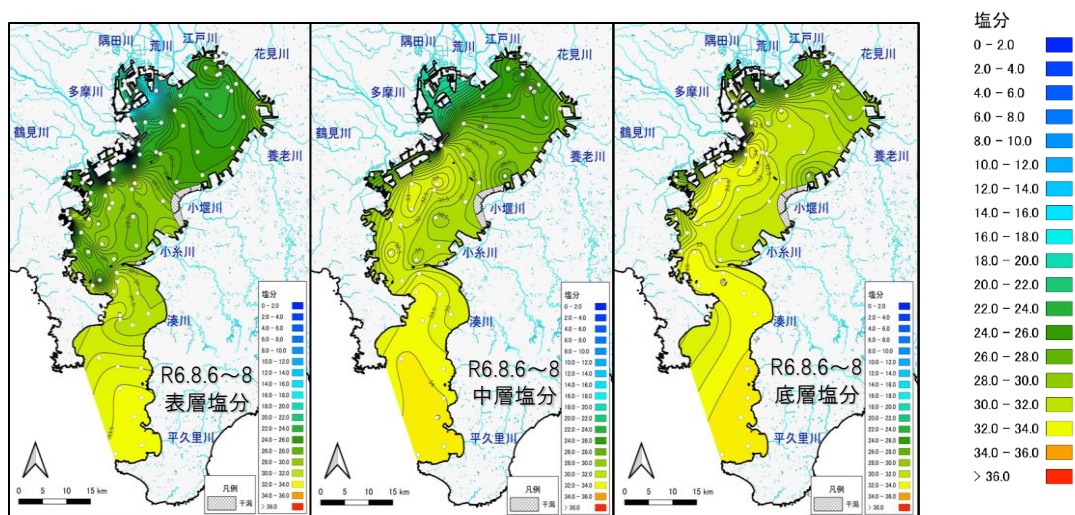
表層：水深 1m まで、中層：水深の半分から±1m、底層：海底上 1m までを示す。(次頁へ続く。)

図 5-6a 平成 21 年から平成 25 年 8 月における東京湾の水温の状況



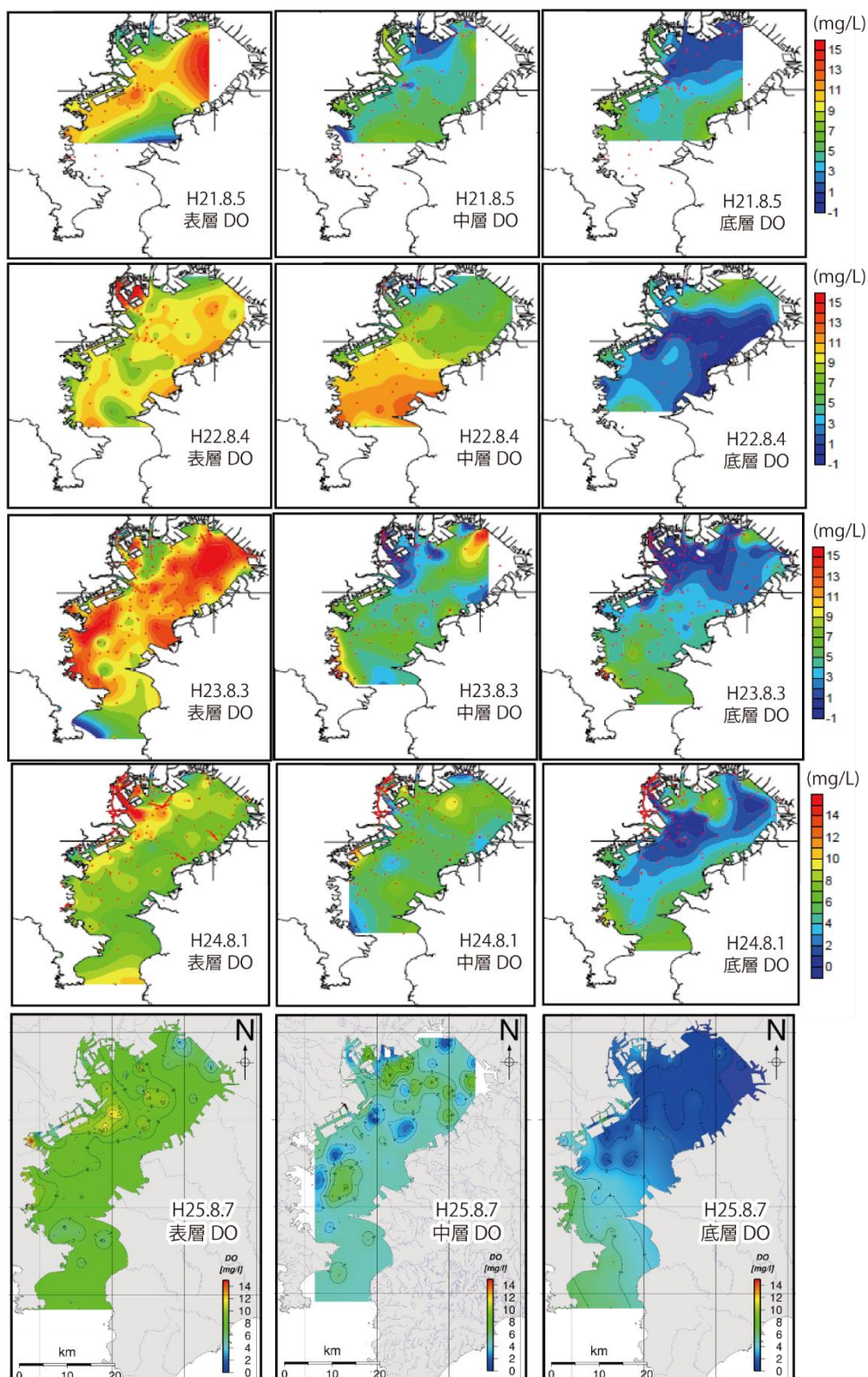
表層：水深 1m まで、中層：水深の半分から±1m、底層：海底上 1m までを示す。(次頁へ続く。)

図 5-7a 平成 21 年から平成 25 年 8 月における東京湾の塩分の状況



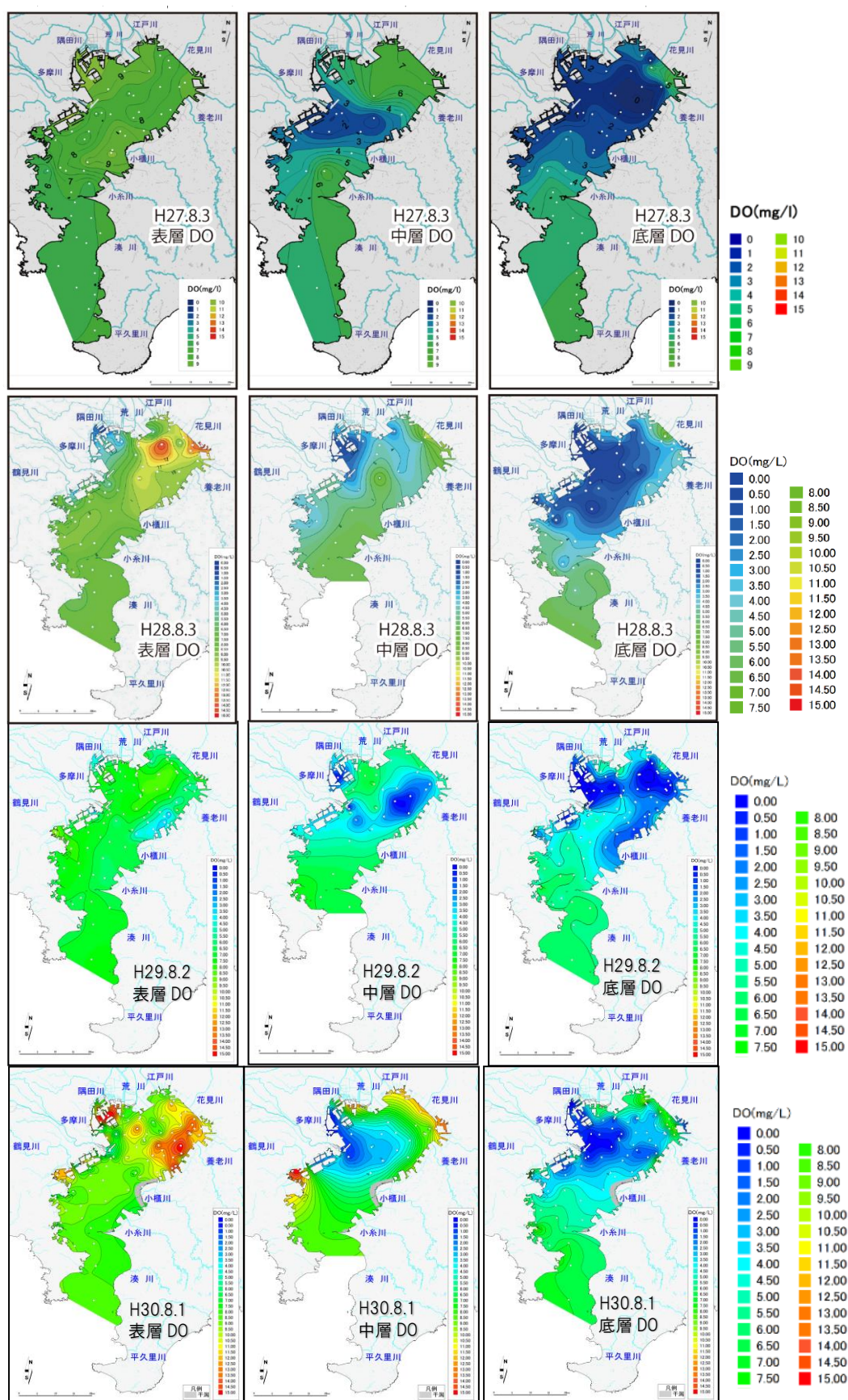
表層：水深 1m まで、中層：水深の半分から±1m、底層：海底上 1m までを示す。

図 5-7d 令和 6 年 8 月における東京湾の 3 日間平均塩分の状況



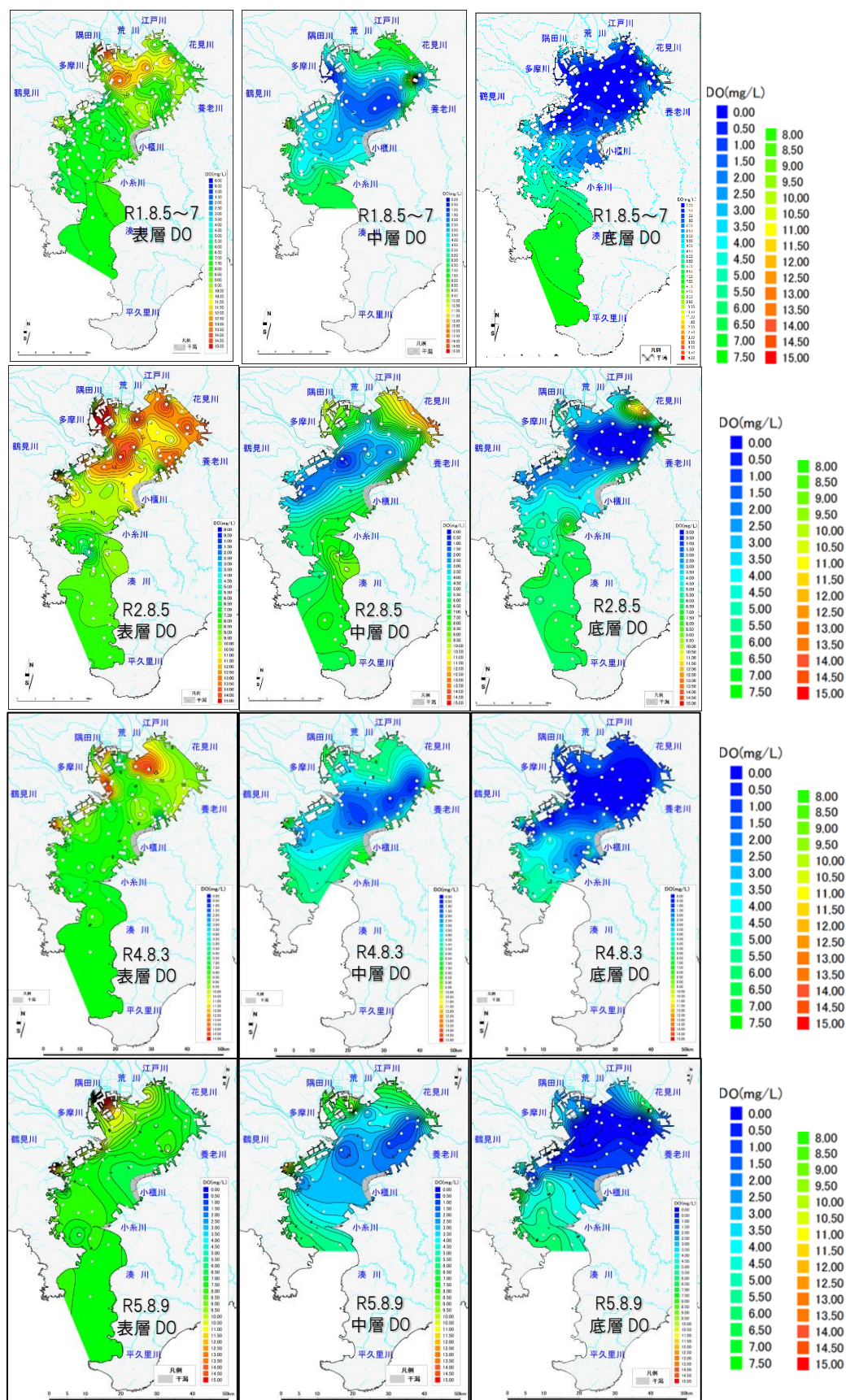
表層：水深 1m まで、中層：水深の半分から±1m、底層：海底上 1m までを示す。(次頁へ続く。)

図 5-8a 平成 21 年から平成 25 年 8 月における東京湾の DO の状況



表層：水深 1m まで、中層：水深の半分から±1m、底層：海底上 1m までを示す。(次頁へ続く。)

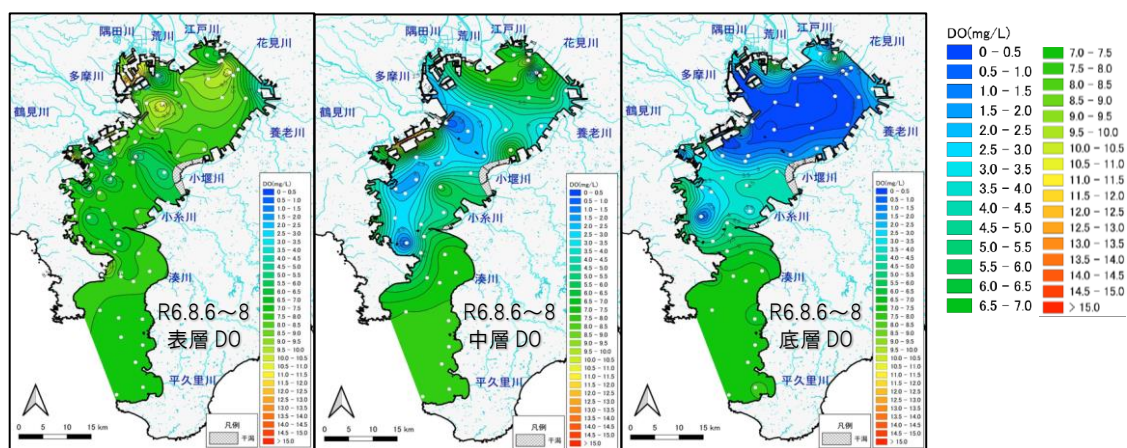
図 5-8b 平成 27 年から平成 30 年(平成 26 年を除く) 8 月における東京湾の DO の状況



表層：水深 1m まで、中層：水深の半分から±1m、底層：海底上 1m までを示す。

なお、令和元年については、3 日間平均水温を示す。

図 5-8c 令和元年から令和 5 年(令和 3 年を除く) 8 月における東京湾の DO の状況

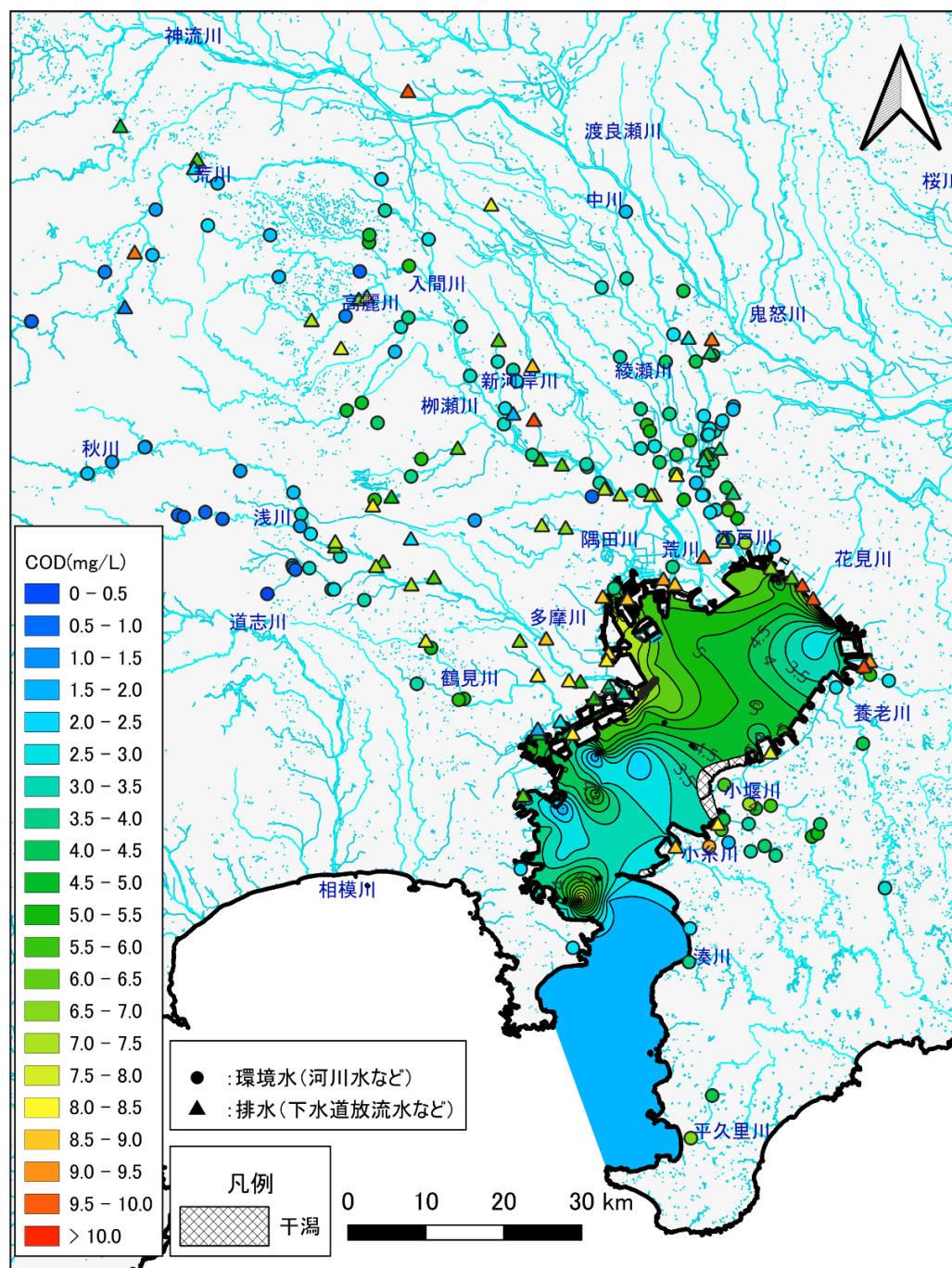


表層：水深 1m まで、中層：水深の半分から±1m、底層：海底上 1m までを示す。

図 5-8d 令和 6 年 8 月における東京湾の 3 日間平均 DO の状況

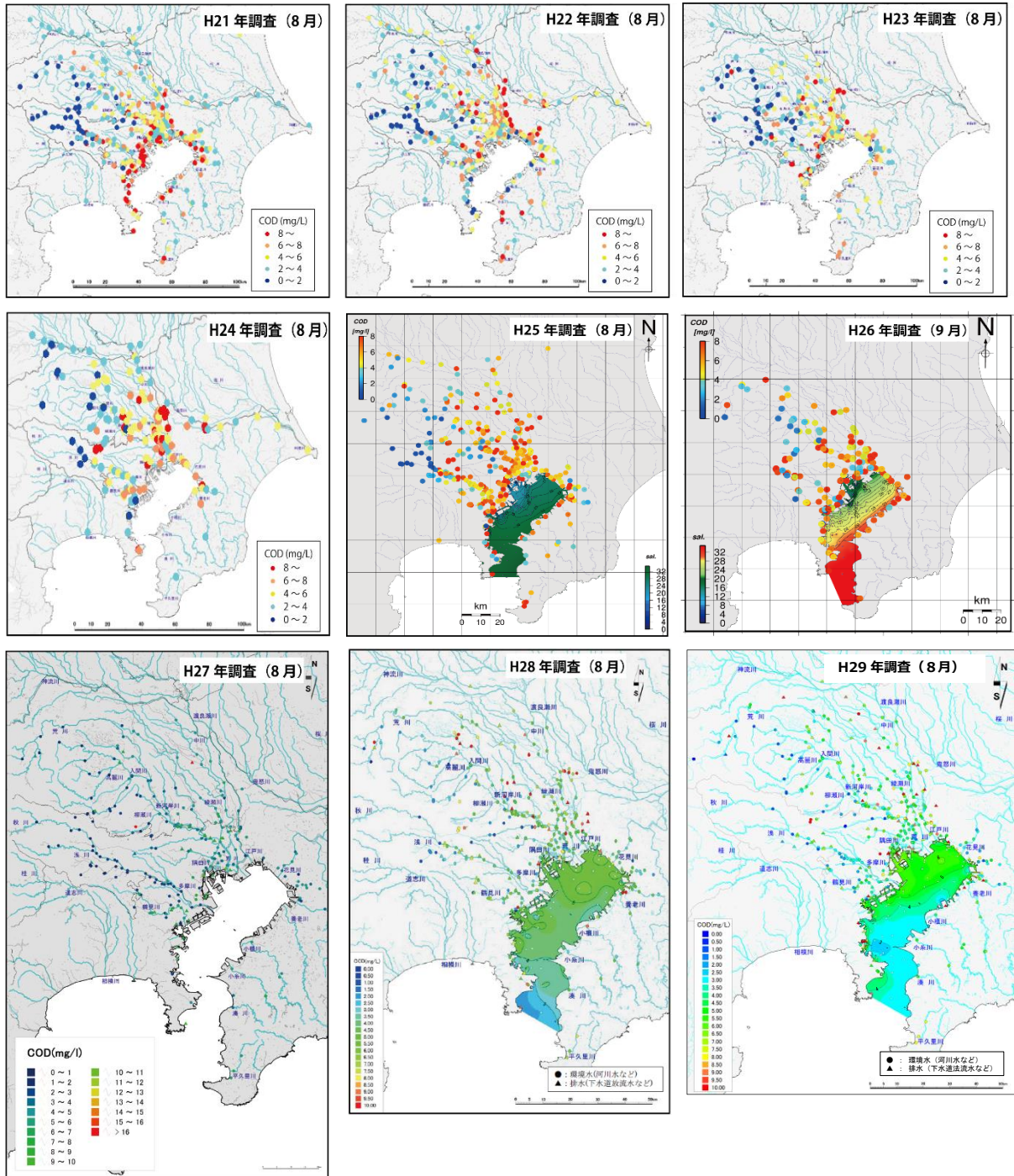
6. 河川・湖沼の調査結果

令和6年の河川のCODの状況は、図6-1のとおりです。平成21年から令和6年までの16年間の河川等のCODの状況は図6-2に示すとおりです。CODの値は、例年、都市郊外の河川上流域で低く、市街地の発達した河川下流域で高い傾向にありますが、令和6年は利根川・鶴見川では河川上流域で高い傾向にありました。各河川の詳細は、次項「7. 東京湾に流入する主な河川の状況」を参照してください。



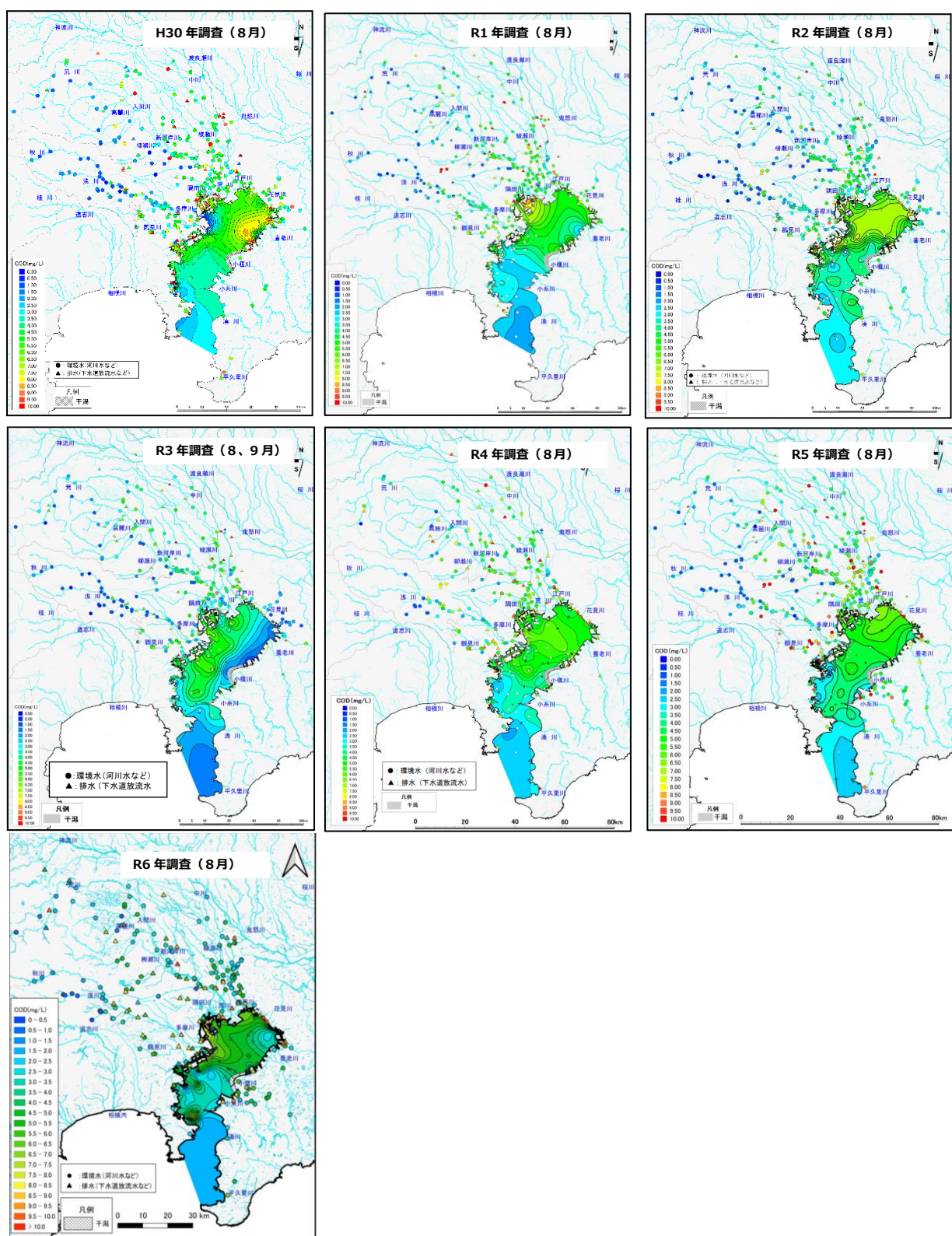
調査基準日前後の調査結果を含む。

図6-1 令和6年8月のCODの状況



調査基準日前後の調査結果を含む。(次頁へ続く。)

図 6-2a 平成 21 年～平成 29 年（平成 26 年は 9 月、その他は 8 月）の
COD 観測結果の比較



調査基準日前後の調査結果を含む。

図 6-2b 平成 30 年～令和 6 年（令和 3 年は 8 月及び 9 月、その他は 8 月）の COD 観測結果の比較

7. 東京湾に流入する主な河川の状況

東京湾及びその流域図を図 7-1 に示します。東京湾の流域には、東京湾に接する千葉県、東京都、神奈川県のほか、埼玉県が広い面積を持っており、茨城県、山梨県の一部も含まれます。東京湾流域の河川は、陸域から東京湾へ淡水とともに物質を供給する役割を持っており、流域の環境は東京湾の水環境に影響を与えています。東京湾に流入する主な河川としては多摩川、荒川、利根川、鶴見川水系があげられます。

令和 6 年度東京湾環境一斉調査では、河川等の水質調査のデータを収集しました。東京湾流域における主な河川の水温、流量、化学的酸素要求量（COD）、溶存酸素量（DO）、透視度の状況を、水系ごとに図 7-2 から図 7-31 に示します。

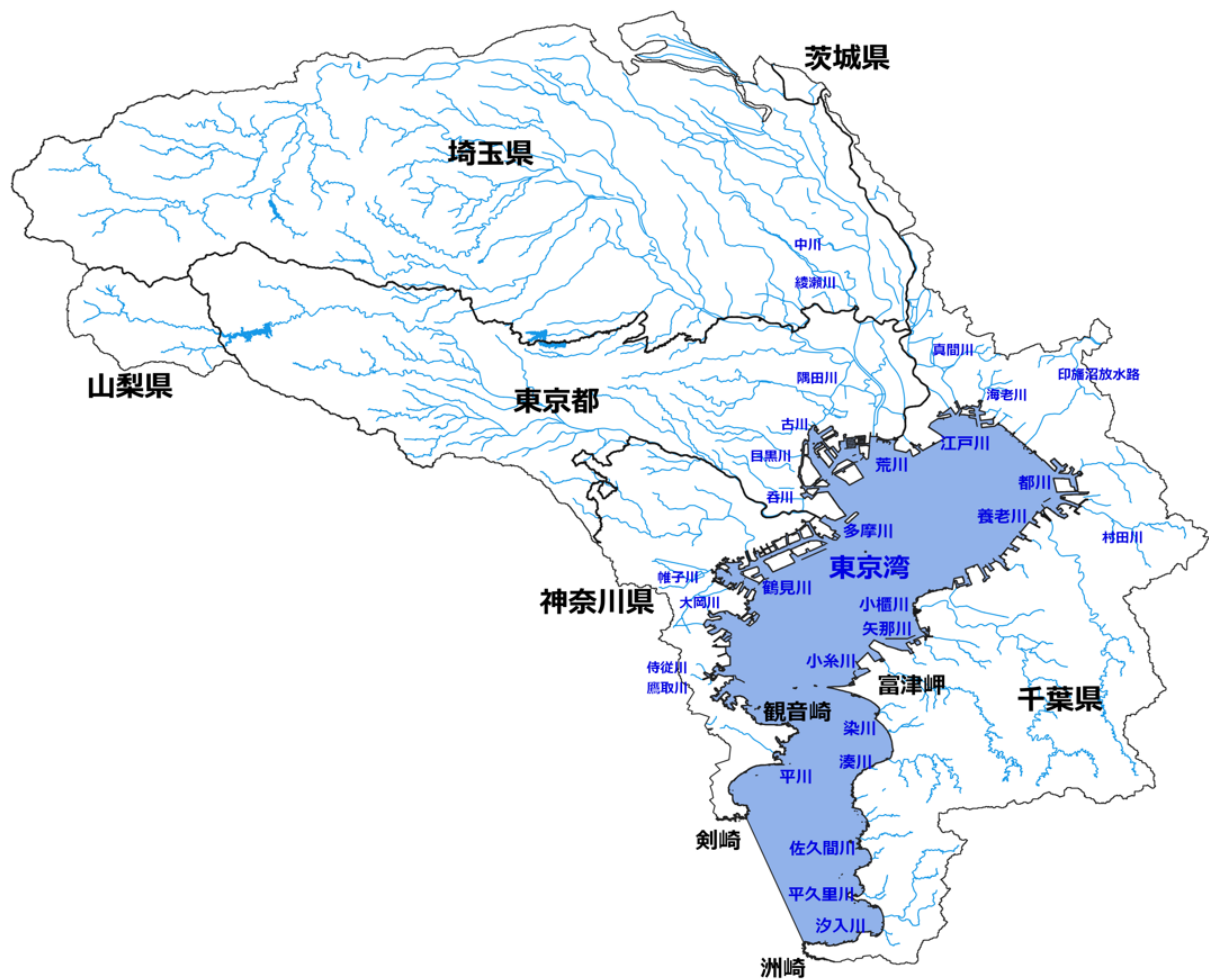


図 7-1 東京湾及びその流域図

(1) 多摩川水系

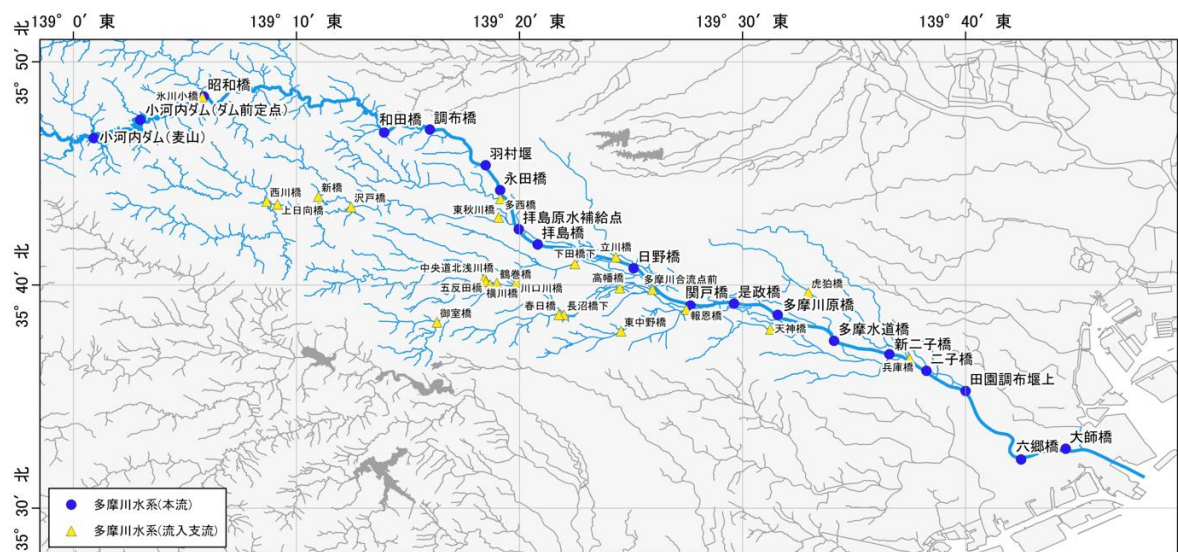
多摩川水系において、水温は、本流支流ともに、ばらつきがありましたが、概ね上流から下流に向かって上昇する傾向が見られました。

流量は、本流では、概ね上流から下流に向かって増加する傾向が見られました。支流では、 $0.1\sim 5.1\text{ m}^3/\text{s}$ で推移していました。

COD は、本流支流ともに、ばらつきがありましたが、河口からほぼ横ばいで、40 km 付近から上流から下流に向かって増加する傾向が見られました。

DO は、本流は、概ね上流から下流に向かって減少しているように見える傾向は、水温上昇による影響と思われます。支流は、 $5.5\sim 12.1\text{ mg/L}$ の範囲でばらつきが見られました。

透視度は、本流支流ともに概ね上流から下流に向かって減少する傾向が見られました。



背景地図：国土地理院発行の「数値地図（国土基本情報）」をもとに加工、国土交通省国土政策局「国土数値情報（河川データ）」をもとに編集・加工

図 7-2 多摩川水系流域における調査点図

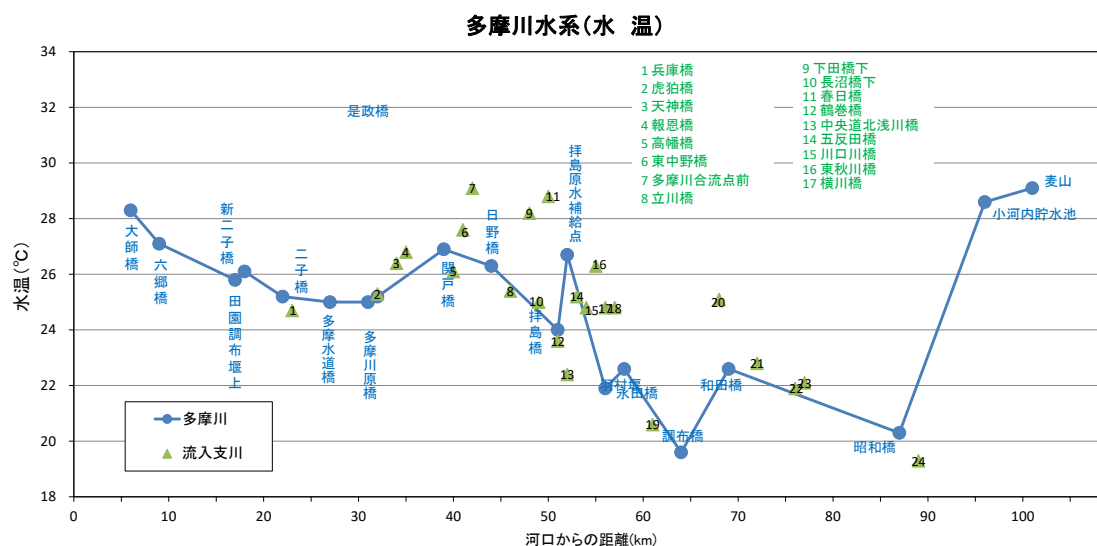


図 7-3 多摩川水系における水温（8月）と河口からの距離の関係

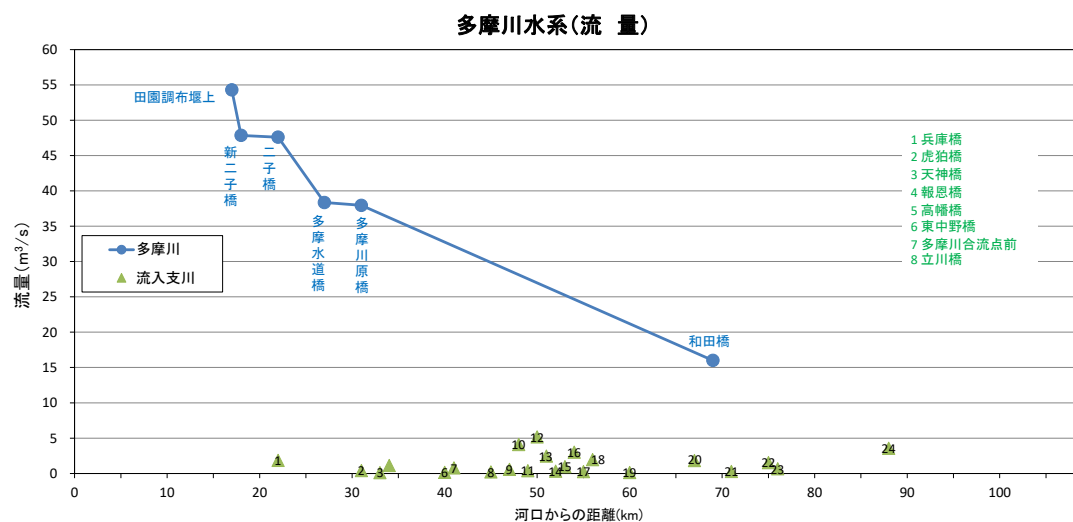


図 7-4 多摩川水系における流量（8月）と河口からの距離の関係

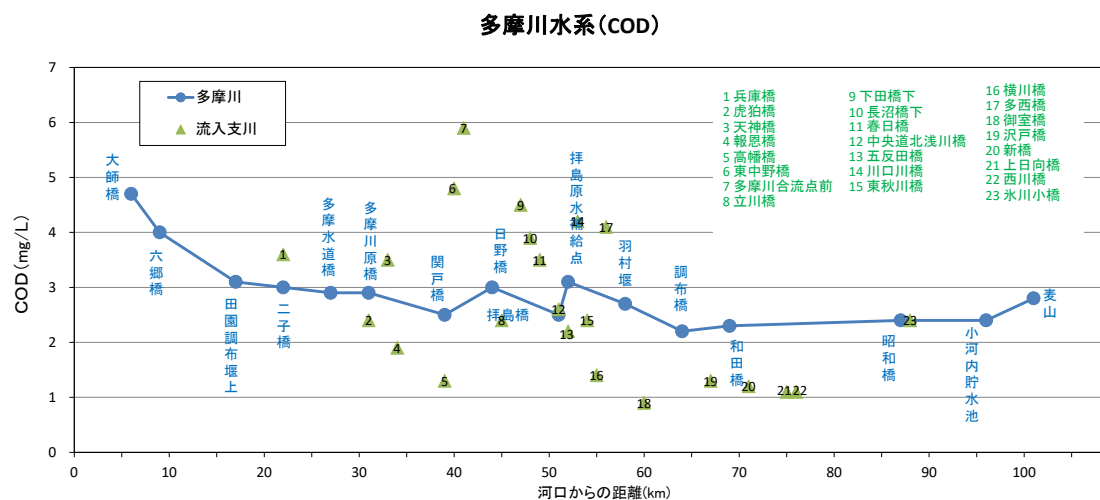


図 7-5 多摩川水系における COD（8月）と河口からの距離の関係

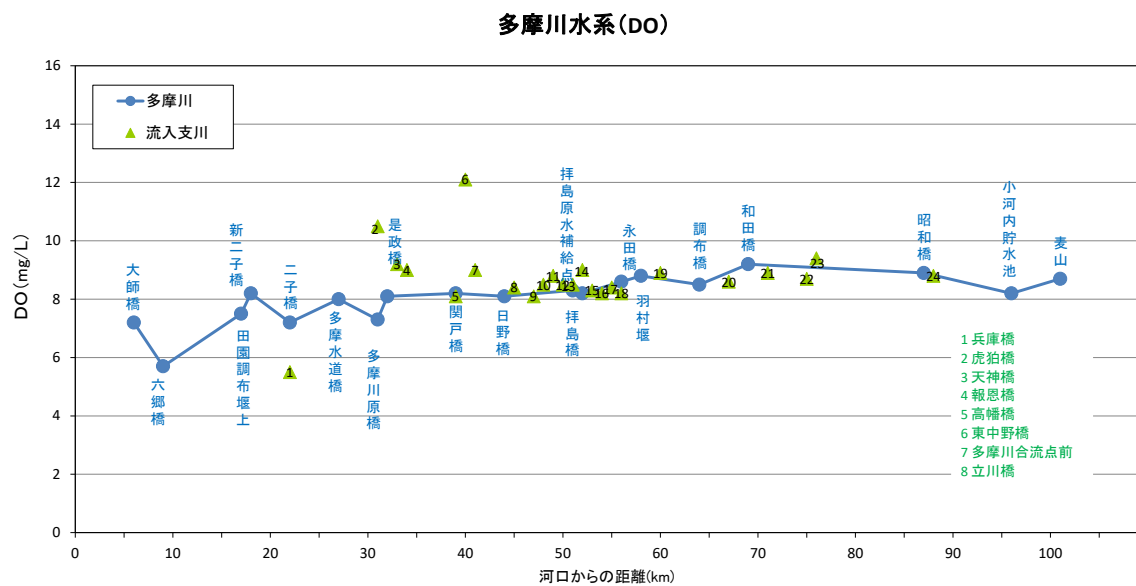


図 7-6 多摩川水系における DO（8月）と河口からの距離の関係

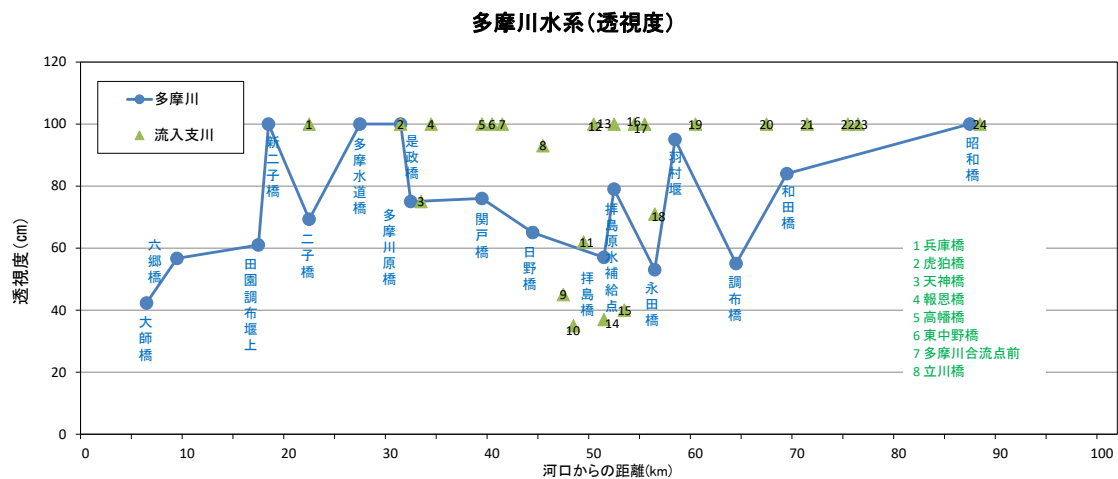


図 7-7 多摩川水系における透視度（8月）と河口からの距離の関係

(2) 荒川水系

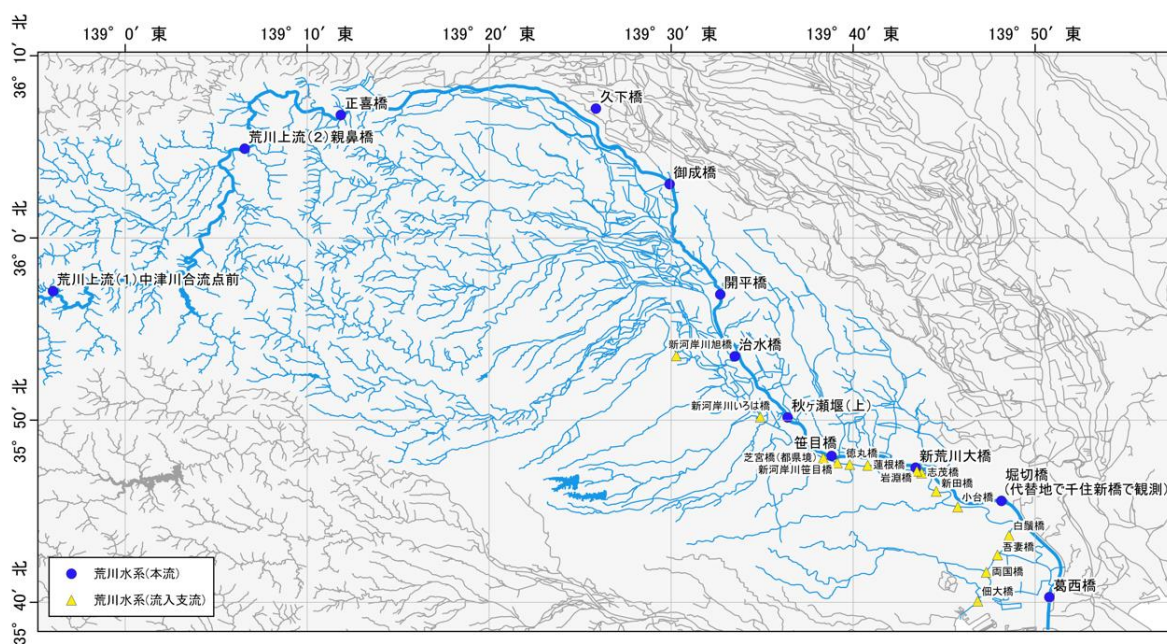
荒川水系において、水温は、荒川、隅田川、新河岸川ともに、ばらつきがありましたが、概ね上流から下流に向かって上昇する傾向が見られました。

流量は、本流支流ともに、上流から下流に向かって増加する傾向が見られました。

COD は、本流支流ともに、概ね上流から下流に向かって増加する傾向が見られました。

DO は、本流支流ともに、概ね上流から下流に向かって減少しているのは、海域の貧酸素水塊の影響を受けている可能性があります。

透視度は、本流は、概ね上流から下流に向かって低下する傾向が見られ、隅田川、新河岸川では、ばらつきが見られました。



背景地図：国土地理院発行の「数値地図（国土基本情報）」をもとに加工、国土交通省国土政策局「国土数値情報（河川データ）」をもとに編集・加工

図 7-8 荒川水系流域における調査点図

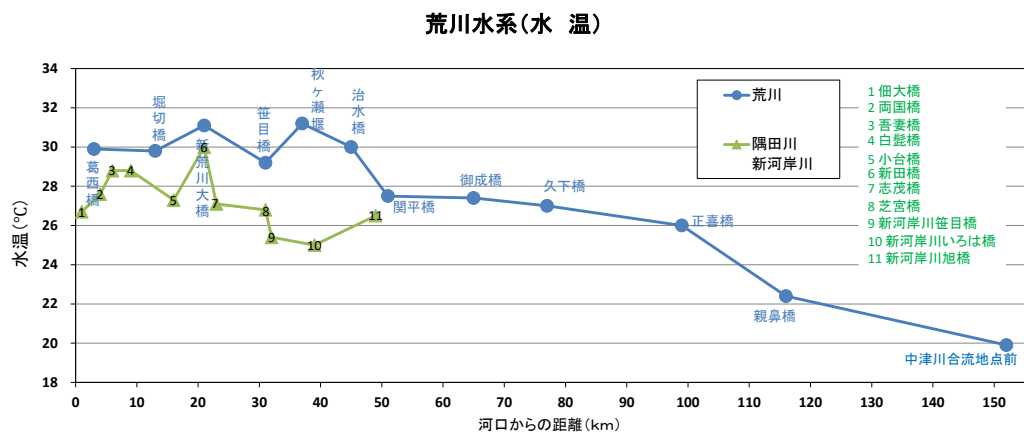


図 7-9 荒川水系における水温（８月）と河口からの距離の関係

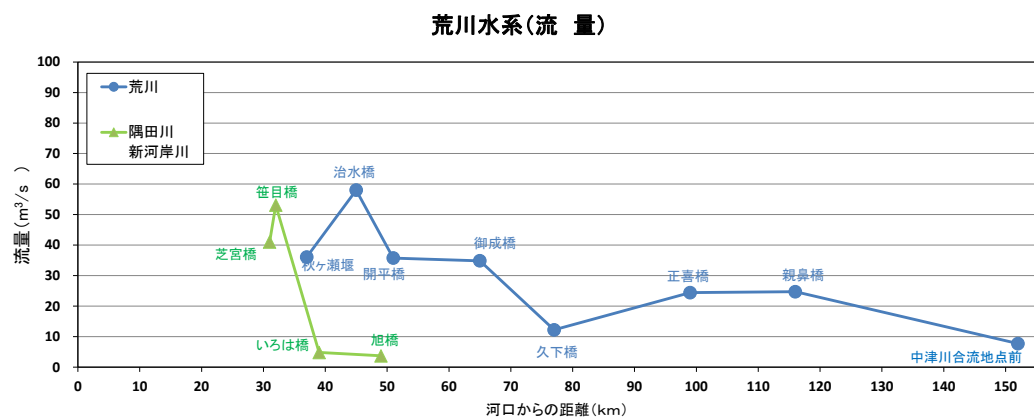


図 7-10 荒川水系における流量（８月）と河口からの距離の関係

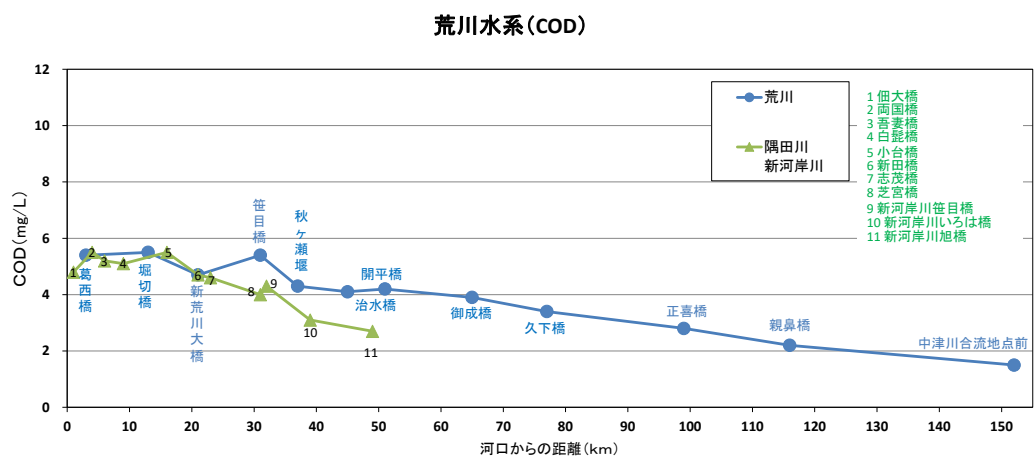


図 7-11 荒川水系における COD（８月）と河口からの距離の関係

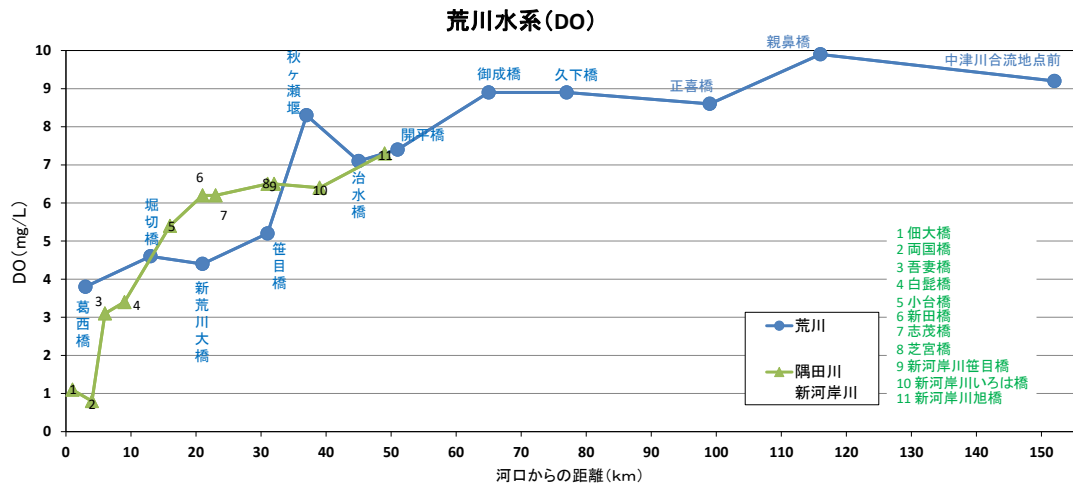


図 7-12 荒川水系における DO（8月）と河口からの距離の関係

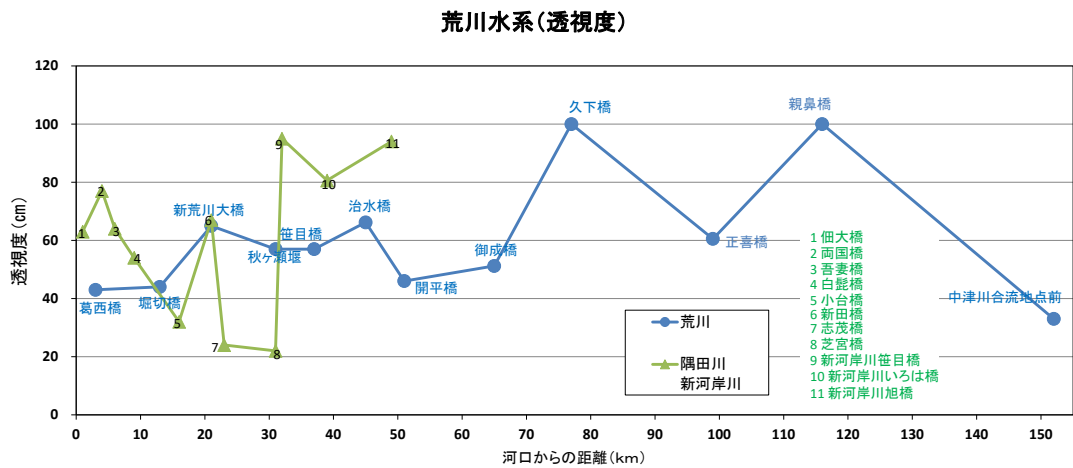


図 7-13 荒川水系における透視度（8月）と河口からの距離の関係

(3) 利根川水系（中川、江戸川、綾瀬川）

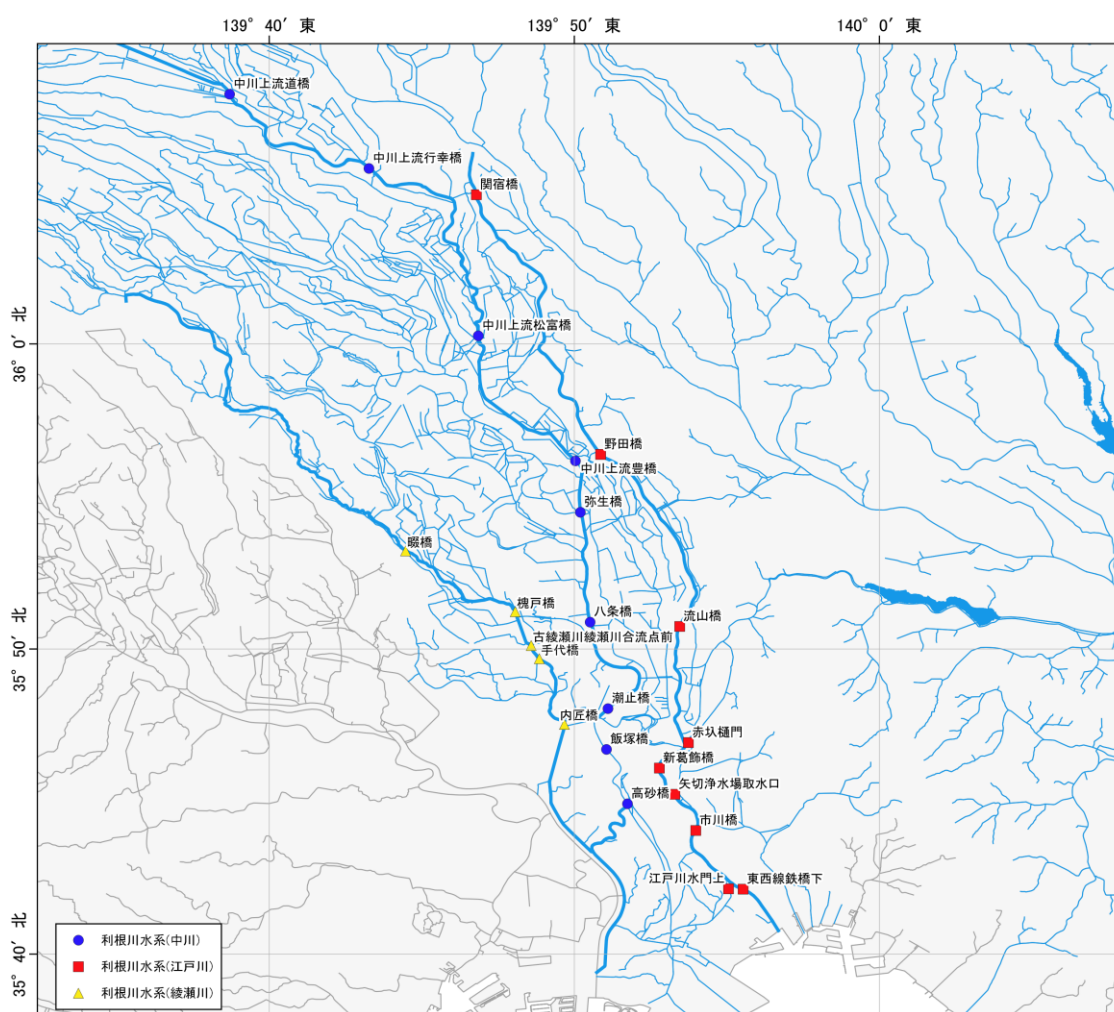
水温は、中川、江戸川ともに、ばらつきがありましたが、概ね上流から下流に向かって上昇する傾向が見られました。綾瀬川では、ばらつきが見られました。

流量は、中川と綾瀬川では、概ね上流から下流に向かって増加する傾向が見られました。江戸川では、減少しているように見えますが、分水による影響と思われます。

COD は、江戸川、綾瀬川ともに、ばらつきが見られ、中川では、上流から下流に向かって、河口から 50 km 付近から緩やかに増加する傾向が見られました。

DO は、中川は、概ね上流から下流に向かって増加する傾向が見られました。綾瀬川では、上流から下流に向かって減少する傾向が見られました。

透視度は、中川、江戸川ともにばらつきがありましたが、上流から下流に向かって減少する傾向が見られました。綾瀬川では、ばらつきがありましたが、上流から下流に向かって増加する傾向が見られました。



背景地図：国土地理院発行の「数値地図（国土基本情報）」をもとに加工、国土交通省国土政策局「国土数値情報（河川データ）」をもとに編集・加工

図 7-14 利根川水系流域①（中川、江戸川、綾瀬川）における調査点図

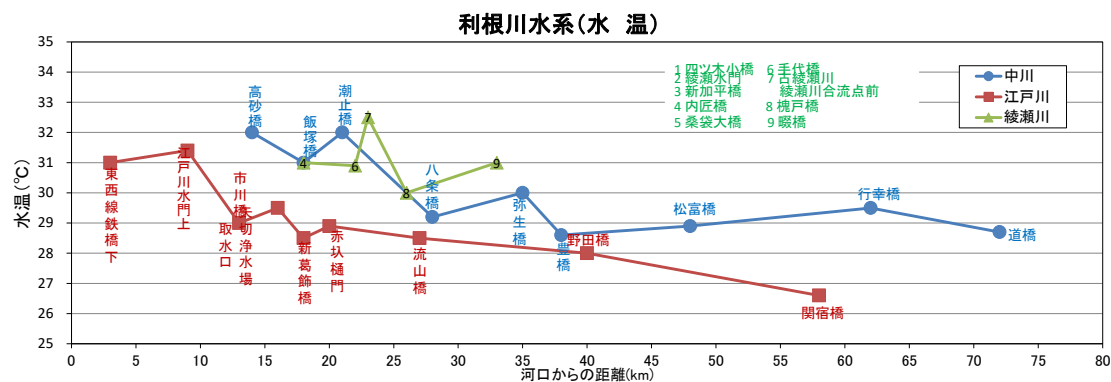


図 7-15 利根川水系①（中川、江戸川、綾瀬川）における水温（8月）と河口からの距離の関係

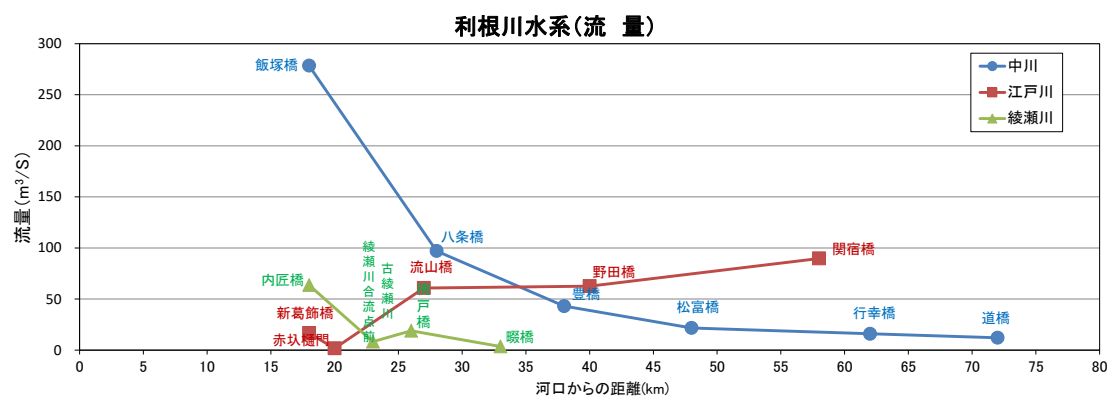


図 7-16 利根川水系①（中川、江戸川、綾瀬川）における流量（8月）と河口からの距離の関係

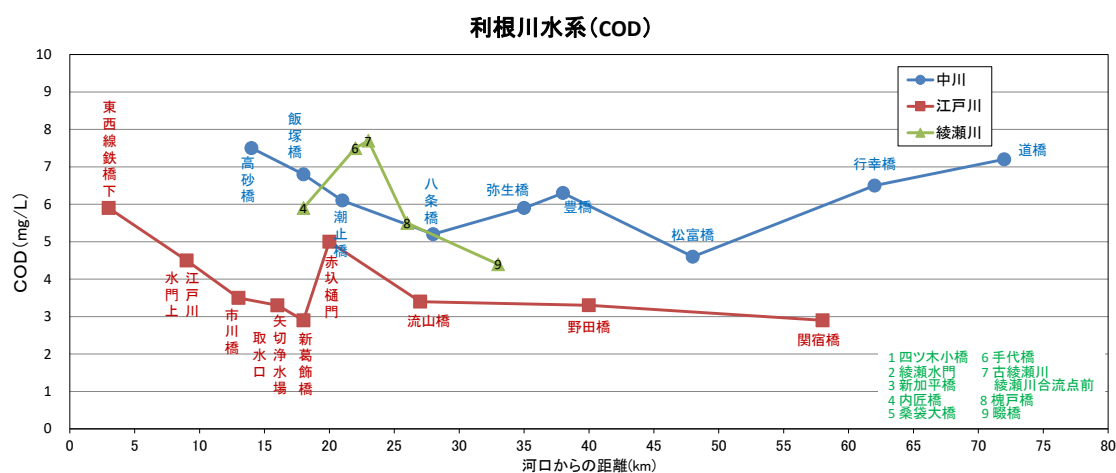


図 7-17 利根川水系①（中川、江戸川、綾瀬川）における COD（8月）と河口からの距離の関係

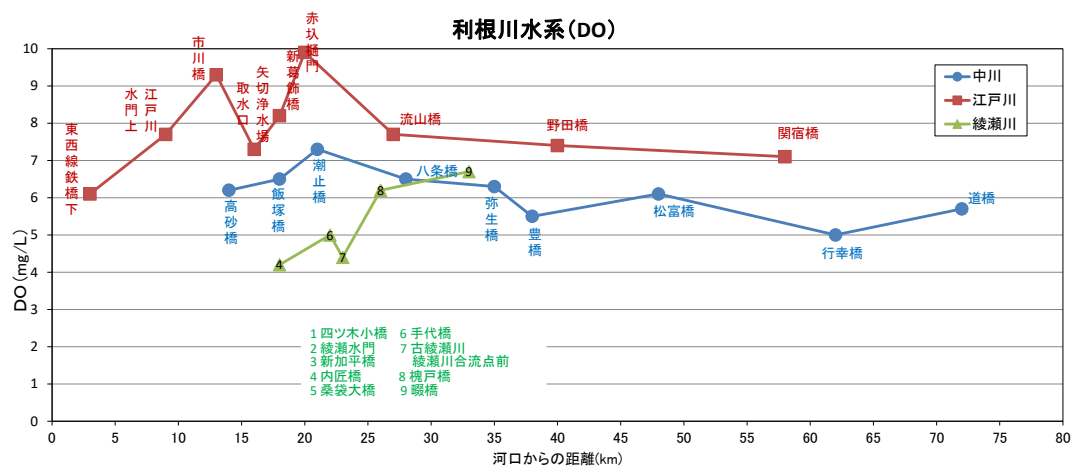


図 7-18 利根川水系①（中川、江戸川、綾瀬川）における DO（8 月）と河口からの距離の関係

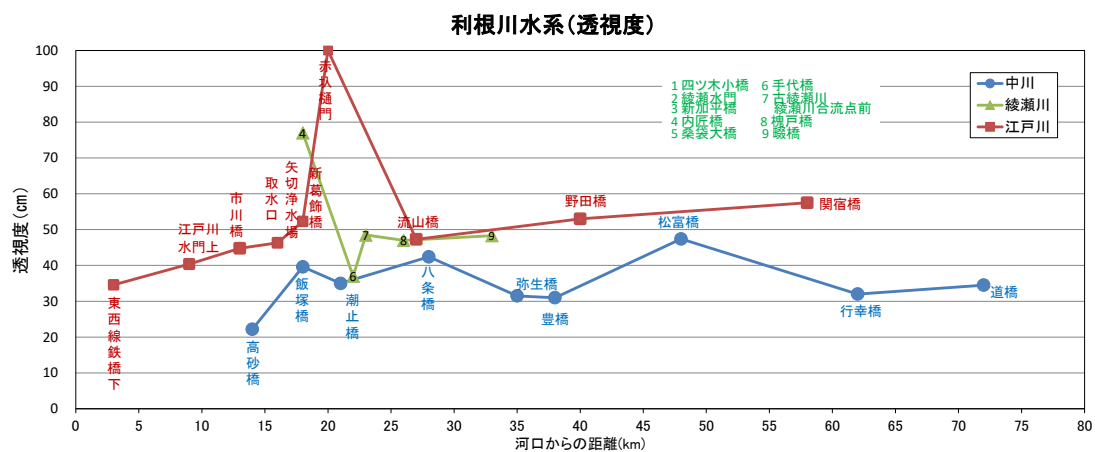


図 7-19 利根川水系①（中川、江戸川、綾瀬川）における透視度（8 月）と河口からの距離の関係

(4) 鶴見川水系

鶴見川水系において、水温は、本流支流ともに、ばらつきがありましたが、概ね上流から下流に向かって上昇する傾向が見られました。

流量は、本流支流ともに、ばらつきがありましたが、概ね上流から下流へ向かって増加する傾向が見られました。

COD は、本流は、ばらつきがありましたが、概ね上流から下流に向かって減少する傾向が見られました。支流は、3.0～5.2 mg/L の範囲でばらつきが見られました。

DO は、本流支流ともに、水温上昇に伴う飽和状態となっている傾向が見られました。

透視度は、本流支流ともに、74 cm～測定最大限界の 100 cm の範囲に含まれました。



背景地図：国土地理院発行の「数値地図（国土基本情報）」をもとに加工、国土交通省国土政策局「国土数値情報（河川データ）」をもとに編集・加工

図 7-20 鶴見川水系流域における調査点図

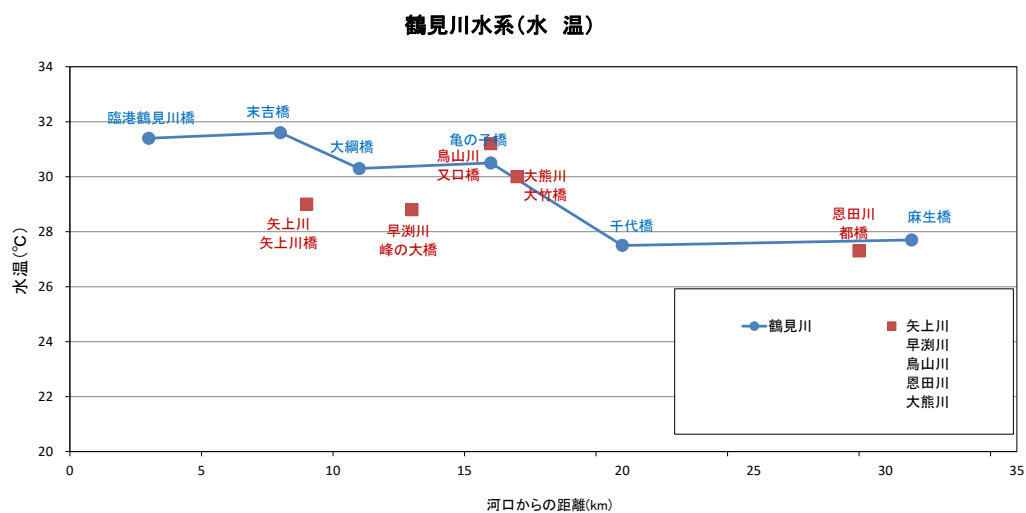


図 7-21 鶴見川水系における水温（8月）と河口からの距離の関係

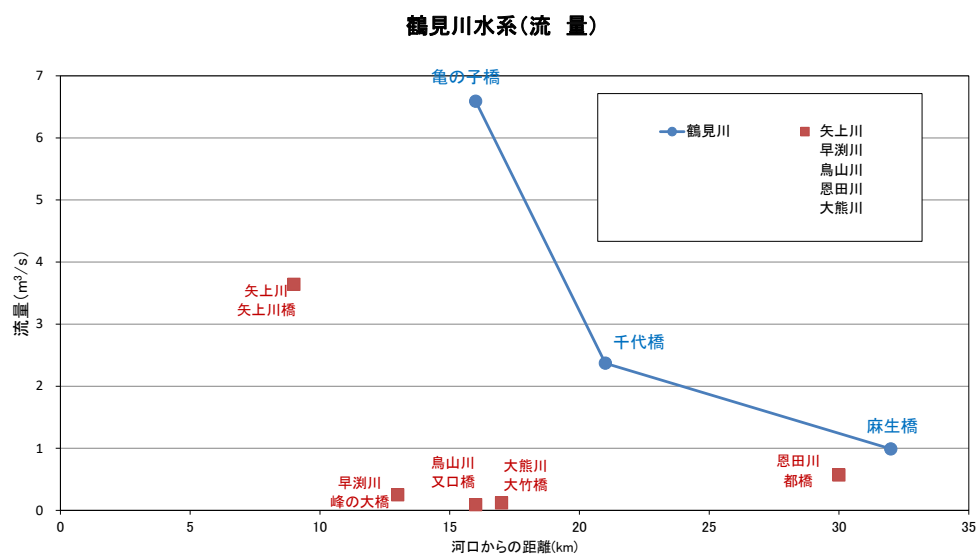


図 7-22 鶴見川水系における流量（8月）と河口からの距離の関係

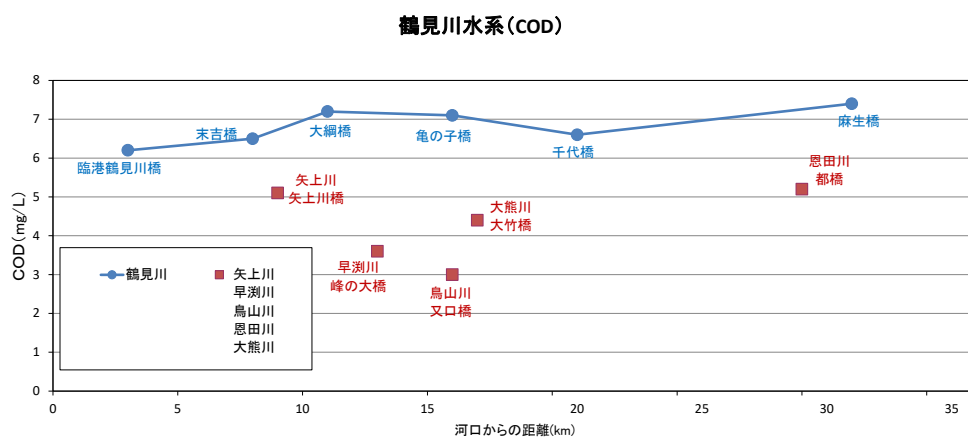


図 7-23 鶴見川水系における COD（8月）と河口からの距離の関係

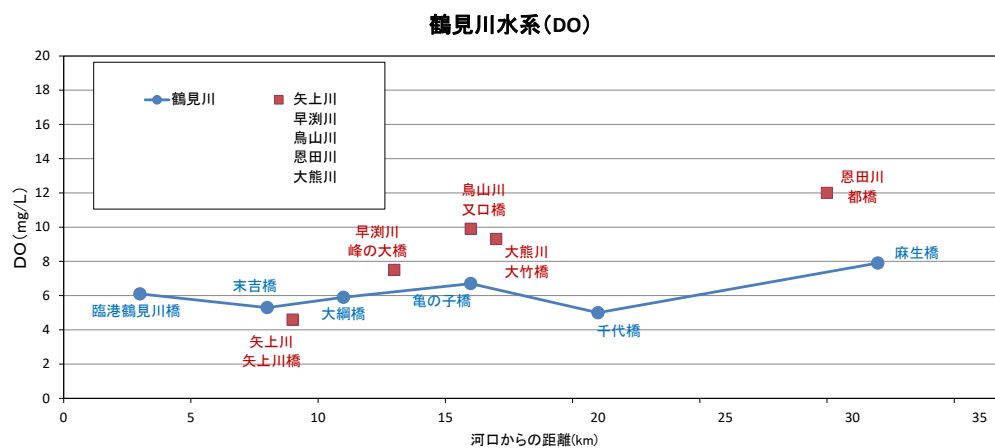


図 7-24 鶴見川水系における DO（8月）と河口からの距離の関係

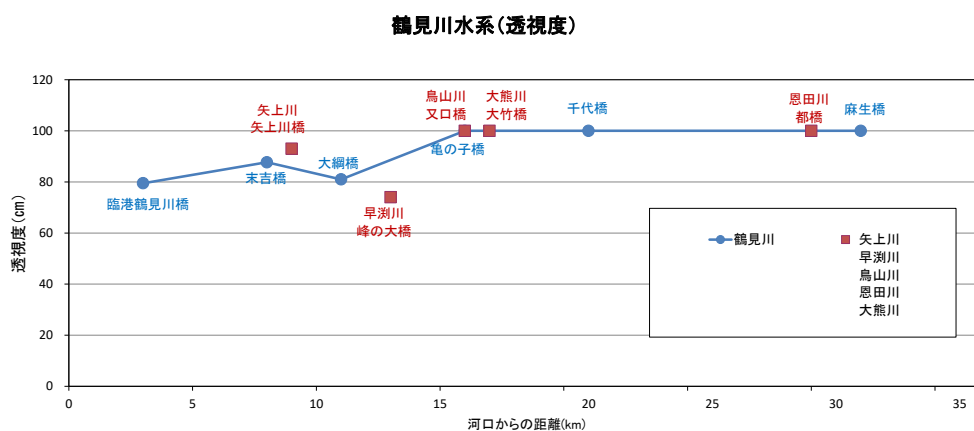


図 7-25 鶴見川水系における透視度（8月）と河口からの距離の関係

8. 生物調査の実施実績

令和6年度の東京湾環境一斉調査における生物調査では、干潟調査及びその他の調査が実施されました。調査参加機関のレポートに記載された参加状況を合算したところ、干潟調査（8-1）には延べ317名が参加し、その他の調査（8-2）についても多くの機関によって調査が行われており、大勢の参加者によって生物調査が実施されました。

8-1 干潟調査

（1）干潟調査の概要

令和6年度は多摩川河口、浦安市日の出地先等の干潟を対象として調査が実施されました。また、より多くの方に東京湾を身近に感じてもらうため、昨年度に引き続き、干潟調査の一環として「カニ生息一斉調査」も実施されました。

（2）調査参加機関

令和6年度は、5団体から干潟調査の結果について報告があり（表8-1）、そのうちの2団体によりカニ生息一斉調査が実施されました。

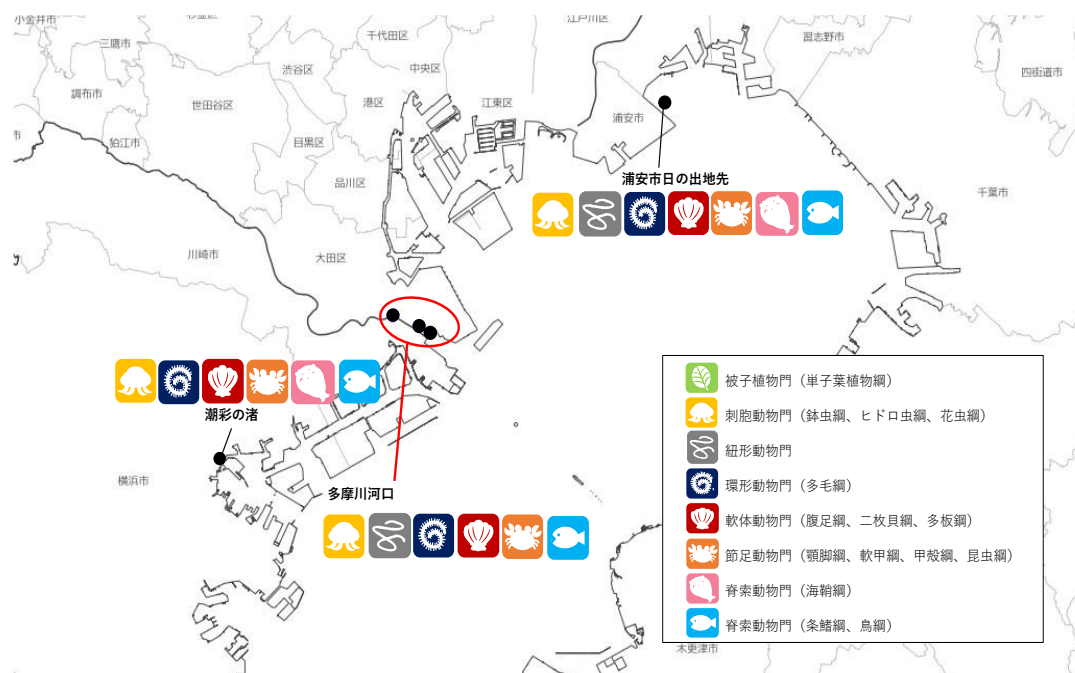
表8-1 干潟調査の実施実績

レポート番号 掲載ページ	実施機関	調査場所	実施日
① p. I-1	大田区環境マイスターの会	多摩川河口大田区側	6月22日 7月19日
② p. I-21	浦安市三番瀬環境観察館	浦安市日の出地先	7月7日 7月11日 7月21日 7月28日 8月18日 8月23日 9月15日
③ p. I-25	横浜港湾空港技術調査事務所 外来海洋生物観察会	横浜港湾空港技術調査事務所 「潮彩の渚」	8月2日
④ p. I-28	横浜港湾空港技術調査事務所 江戸前アサリわくわく調査		8月20日
⑤ p. I-31	横浜港湾空港技術調査事務所 釣り調査		9月17日 9月18日

(3) 干潟調査の結果

令和6年度の干潟調査は、5団体により3地点で実施されました(図8-1)。その結果、16綱129種の生物の生息が確認されました(表8-2)。

さらに今回確認された生物種について、環境省レッドリスト2020(令和2年3月)及び環境省版海洋生物レッドリスト(平成29年3月)¹への掲載の有無を調べたところ、絶滅危惧Ⅱ類(VU)と評価される種が2種、準絶滅危惧(NT)と評価される種が5種含まれていることが確認できました。また、生態系被害防止外来種リスト(環境省及び農林水産省、2016)²への掲載の有無について調べたところ、特定外来生物は含まれていなかったものの、総合対策外来種が5種含まれていることがわかりました。



出典：海洋状況表示システム(<https://www.msil.go.jp>)、国土地理院(GSI)

図 8-1 干潟調査の実施地点と確認された生物種

¹ 環境省レッドリスト／海洋生物レッドリスト：評価カテゴリーは絶滅(EX)、野生絶滅(EW)、絶滅危惧ⅠA類(CR)、絶滅危惧ⅠB類(EN)、絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)、絶滅危惧Ⅱ類(VU)、準絶滅危惧(NT)、情報不足(DD)、絶滅のおそれのある地域個体群(LP)の8つに分けられる。絶滅危惧Ⅱ類(VU)は「絶滅の危険が増大している種」、準絶滅危惧(NT)は「現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては『絶滅危惧』に移行する可能性のある種」と定義される。

² 生態系被害防止外来種リスト：定着を予防する外来種(定着予防外来種)、総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種)、適切な管理が必要な産業上重要な外来種(産業管理外来種)の大きく3つに分類される。

表 8-2 干潟調査で確認された生物種

綱	科	種名		東京	千葉	神奈川	環境省レッドリスト/ 海洋生物レッドリス ト※	生態系被害防止 外来種リスト※
		和名	学名	多 摩 川 河 口 大 田 区 側	浦 安 市 日 の 出 地 先	潮 彩 の 渚		
							カテゴリ	カテゴリ
単子葉植物	アマモ	コアマモ	<i>Zostera japonica</i>					
鉢虫	オキクラゲ	アカクラゲ	<i>Chrysaora pacifica</i>	○				
	ミズクラゲ	ミズクラゲ	<i>Aurelia cf. coerulea</i>	○				
花虫	タテジマイソギンチャク	タテジマイソギンチャク	<i>Diadumene lineata</i>		○	○		
	ホウザウイソギンチャク	ホウザウイソギンチャク	<i>Synandwakia hozawai</i>		○			
	ウミサボテン	ウミサボテン	<i>Cavernularia obesa</i>					
多毛	ゴカイ	ヤマトカワゴカイ	<i>Hediste diadroma</i>	○				
		カワゴカイ属	<i>Hediste</i> sp.					
		アシナガゴカイ	<i>Neanthes succinea</i>		○			
		オウキゴカイ	<i>Nectoneanthes latipoda</i>		○			
		クマドリゴカイ	<i>Perinereis cultrifera</i>		○			
		デンガクゴカイ	<i>Pseudonereis variegata</i>		○			
		コケゴカイ	<i>Simplisetia erythraeensis</i>		○			
		ミナミシロガネゴカイ	<i>Nephtys polybranchia</i>		○			
		-	-	○				
	イトゴカイ	-	-	○				
	カンザシゴカイ	-	-					
	イソメ	イソメシ種群	-		○			
	ビクイソメ	アカムシ	<i>Halla okudai</i>		○			
	ナナテイソメ	スゴカイイソメ	<i>Diopatra sugokai</i>		○			
	ギボシイソメ	コアシギボシイソメ	<i>Scoletoma nipponica</i>		○			
	スピオ	Parapriopio属	-					
		シノブハネエラスピオ	<i>Parapriopio patiens</i>		○			
		マダラスピオ	<i>Polydora brevipalpa</i>		○			
		-	-		○			
	チロリ	ヒガタチロリ	<i>Glycera macintoshi</i>		○			
		-	-		○			
	ミズヒキゴカイ	ミズヒキゴカイ種群	-		○	○		
	タマシキゴカイ	タマシキゴカイ	<i>Arenicola brasiliensis</i>		○			
	オフエリアゴカイ	ツツオオフエリア	<i>Armandia cf. amakusaensis</i>		○			
	ツバサゴカイ	ツバサゴカイ	<i>Chaetopterus cautus</i>		○			
	シリス	シロマダラシリス	<i>Syllis adamantea</i>		○			
	ウロコムシ	ハモチウロコムシ	<i>Lepidonotus dentatus</i>		○			
(紐形動物)	-	-	-	○	○			
腹足	ニシキウズガイ	イボキサゴ	<i>Umbonium monilliferum</i>		○		準絶滅危惧 (NT)	
	ムシロガイ	アラムシロガイ	<i>Reticunassa festiva</i>	○	○	○		
	アッキガイ	イボニシ	<i>Thais clavigera</i>		○	○		
		アカニシ	<i>Rapana venosa</i>			○		
	ウミミナ	ホソウミナ	<i>Batillaria attramentaria</i>					
	カノコキセウタ	ヤミヨキセウタ	<i>Melanochlamys fukudai</i>		○		絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	
	タマキビガイ	タマキビ	<i>Littorina brevicula</i>		○			
		アラレタマキビ	<i>Nodilittorina radiata</i>		○			
	カワザンショウガイ	-	-					
	タマガイ	ホソヤツメタ	<i>Neverita didyma hosoyai</i>					
	オオシイノミガイ	ムラクモキジビキガイ	<i>Japonactaeon nipponensis</i>				準絶滅危惧 (NT)	
	アッキガイ	レイシガイ	<i>Reishia bronni</i>		○			
	カリバガサ	シマメノウフネガイ	<i>Crepidula onyx</i>		○	○		総合対策外来種
	トウガタガイ	ヒガタヨコイトカケガリ	<i>Cingulina</i> sp.		○		情報不足 (DD)	
	ヘコミツラガイ	コメツブガイ	<i>Retusa insignis</i>		○			
	リュウテン	コシダカガンガラ	<i>Tegula rustica</i>		○			
二枚貝	イガイ	ホトギスガイ	<i>Musculista senhousia</i>	○	○			
		ムラサキイガイ	<i>Mytilus galloprovincialis</i>					総合対策外来種
		ミドリイガイ	<i>Perna viridis</i>			○		総合対策外来種
		コウロエンカワヒバリガイ	<i>Xenostrobus securis</i>	○	○			総合対策外来種
	イタボガキ	マガキ	<i>Crassostrea gigas</i>	○	○	○		
	マテガイ	マテガイ	<i>Solen strictus</i>	○	○	○		
		エゾマテガイ	<i>Solen krusensterni</i>		○			
	オキナガイ	ソトオリガイ	<i>Exolaternula liautaudi</i>	○				
	シジミ	ヤマトシジミ	<i>Corbicula japonica</i>	○			準絶滅危惧 (NT)	
	マルスダレガイ	オキシジミ	<i>Cyclina</i> aff. <i>sinensis</i>	○	○			
		ホンビノスガイ	<i>Mercenaria mercenaria</i>	○	○			総合対策外来種
		ハマグリ	<i>Meretrix lusoria</i>	○			絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	
		ハマグリ属の一種・未同定	<i>Meretrix</i> sp.		○			
		アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>		○	○		
		カガミガイ	<i>Dosinia japonica</i>		○			
		チリハギガイ	<i>Lasaea undulata</i>		○			
	カキ	-	-	○				
	ニッコウガイ	サビシラトリ	<i>Macoma contabulata</i>	○			準絶滅危惧 (NT)	
		ヒメシラトリ	<i>Macoma incongrua</i>		○			
		サクラガイ	<i>Nitidotellina hokkaidoensis</i>		○		準絶滅危惧 (NT)	
	バカガイ	バカガイ	<i>Macra chinensis</i>		○			
		シオフキガイ	<i>Macra quadrangularis</i>	○	○	○		
	チトセノハナガイ	チヨノハナガイ	<i>Raeta pulchella</i>					
	イワホリガイ	ウスカラシオツガイ	<i>Ptericola</i> sp.		○			
	フネガイ	サルボウガイ	<i>Anadara kagoshimensis</i>			○		
多板	ケハダヒザラガイ	ヒメケハダヒザラガイ	<i>Acanthochitona achates</i>		○			

綱	科	種名		東京	千葉	神奈川	環境省レッドリスト/ 海洋生物レッドリス ト※	生態系被害防止 外来種リスト※
		和名	学名	多摩川 河口大田区側	浦安市 日の出地先	潮彩の渚		
							カテゴリ	カテゴリ
顎脚	フジツボ	ヨーロッパフジツボ	<i>Amphibalanus improvisus</i>					総合対策外来種
		タテジマフジツボ	<i>Amphibalanus amphitrite</i>		○	○	総合対策外来種	
		ドロフジツボ	<i>Fistulobalanus kondakovi</i>					
		シロスジフジツボ	<i>Balanus albicostatus</i>		○			
		-	-	○				
	イワフジツボ	イワフジツボ	<i>Chthamalus challengerii</i>		○	○		
	エボシガイ	エボシガイ	<i>Lepas anatifera</i>					
		フナムシ	キタフナムシ	<i>Ligia cinerascens</i>		○		
		-	-	-	○			
		ミウガガイ	カメノテ	<i>Pollicipes mitella</i>		○		
ヤドカリ		テナガツノヤドカリ	<i>Diogenes nitidimanus</i>		○		情報不足 (DD)	
ホンヤドカリ	コブヨコバサミ	<i>Clibanarius infraspinatus</i>		○	○			
	ユビナガホンヤドカリ	<i>Pagurus minutus</i>		○	○			
	アナジャコ	アナジャコ	<i>Upogebia major</i>	○				
	エビジャコ	ウリタエビジャコ	<i>Crangon uritai</i>		○			
	コムツキガニ	チゴガニ	<i>Ilyoplax pusilla</i>			○		
軟甲	コムツキガニ	コムツキガニ	<i>Scopimera globosa</i>	○				
		オサガニ	ヤマオサガニ	<i>Macrophthalmus japonicus</i>	○			
		ベンケイガニ	ベンケイガニ	<i>Orisarma intermedium</i>				準絶滅危惧 (NT)
		クロベンケイガニ	クロベンケイガニ	<i>Orisarma dehaari</i>				
		カクベンケイガニ	カクベンケイガニ	<i>Parasesarma pictum</i>				
	アカテガニ	アカテガニ	<i>Chiromantes haematocheir</i>					
	ヒメベンケイガニ	ヒメベンケイガニ	<i>Nanosesarma minutus</i>					
	イワガニ	オキナガレガニ	オキナガレガニ	<i>Planes major</i>				
		モクズガニ	ケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus penicillatus</i>	○		○	
			タカノケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus takanoi</i>			○	
		ヒライソガニ	<i>Gaetice depressus</i>					
		イソガニ	<i>Hemigrapsus sanguineus</i>			○		
コブシガニ	アシハラガニ	アシハラガニ	<i>Helice tridens</i>					
		-	-			○		
	マメコブシガニ	マメコブシガニ	<i>Philyra pisum</i>	○				
	ヒラコブシ	ヒラコブシ	<i>Philyra syndactyla</i>					
	スナガニ	スナガニ	<i>Ocypode stimpsoni</i>			○		
	イソオウギガニ	スベスベオウギガニ	<i>Sphaerozium nitidus</i>					
	オウギガニ	シワオウギガニ	<i>Macromedaeus distinguendus</i>					
	テナガエビ	シラクエビ	<i>Exoplaemon orientis</i>		○			
		テナガエビ	<i>Macrobrachium nipponense</i>	○				
		ユビナガスジエビ	<i>Palaemon macrrodactylus</i>	○	○			
ユンボソコエビ	イノスジエビ	イノスジエビ	<i>Palaemon pacificus</i>		○			
	スジエビモドキ	スジエビモドキ	<i>Palaemon serrifer</i>		○			
	スジエビ属	スジエビ属	-					
	ニホンドロソコエビ	ニホンドロソコエビ	<i>Grandidierella japonica</i>		○			
		-	-					
	テッポウエビ	テッポウエビ	<i>Alpheus brevicristatus</i>		○			
	ヒゲナガモエビ	アカシマモエビ	<i>Lyssmata vittata</i>					
	スナウミナナフシ	ムロミスナウミナナフシ	<i>Cyathura muromiensis Nunomura</i>	○				
	ウミナナフシ	ナナフシ	-	○				
	ヨコエビ	-	-	○				
ガザミ	ヒゲナガヨコエビ	モズミヨコエビ	<i>Ampithoe valida</i>		○			
	コツブムシ	シリケンウミセミ	<i>Dynoides dentisinus</i>					
	ワレカラ	マルエラワレカラ	<i>Caprella penantis</i>		○			
		トゲワレカラ	<i>Caprella scaura</i>		○			
		ガザミ	<i>Portunus trituberculatus</i>			○		
		タイワンガザミ	<i>Portunus pelagicus</i>					
		イシガニ	<i>Charybdis japonica</i>			○		
	ミドリガニ	チチュウカイミドリガニ	<i>Carcinus aestuarii</i>				総合対策外来種	
	昆虫	-	-	-	-	-		
		イトトンボ	イトトンボ	<i>Coenagrion sp.</i>				
ウミグモ	アメンボ	ヒメアメンボ	<i>Gerris latiaabdominis</i>					
	シマウミグモ	シマウミグモ	<i>Ammonothea hilgendorfi</i>		○			
	シロボヤ	シロボヤ	<i>Styela plicata</i>					
	エボヤ	エボヤ	<i>Styela clava</i>					
	ユウレイボヤ	カタユウレイボヤ	<i>Ciona intestinalis</i>			○		
	軟骨魚	アカエイ	アカエイ	○				
	条鰭	ボラ	ボラ	<i>Mugil cf. cephalus</i>	○	○	○	
		マハゼ	マハゼ	<i>Acanthogobius flavimanus</i>	○	○	○	
		アシシロハゼ	アシシロハゼ	<i>Acanthogobius lactipes</i>				
		ヒモハゼ	ヒモハゼ	<i>Eutaenichthys gilli</i>	○			準絶滅危惧 (NT)
シモフリシマハゼ		シモフリシマハゼ	<i>Tridentiger bifasciatus</i>		○			
チチブ		チチブ	<i>Tridentiger obscurus</i>			○		
アベハゼ		アベハゼ	<i>Mugilogobius abei</i>				絶滅危惧II類 (VU)	
マサゴハゼ		マサゴハゼ	<i>Pseudogobius masago</i>					
ヒメハゼ		ヒメハゼ	<i>Favonigobius gymnauchen</i>		○			
ツマダロスジハゼ		ツマダロスジハゼ	<i>Acentrogobius sp.2</i>					
アゴハゼ	アゴハゼ	<i>Chaenogobius annularis</i>		○				
イソギンボ	アカオビシマハゼ	アカオビシマハゼ	<i>Tridentiger trigonocephalus</i>					
	ビリンゴ	ビリンゴ	<i>Gymnogobius breunigii</i>					
	ドロメ	ドロメ	<i>Chaenogobius gulosus</i>		○			
	ウロハゼ	ウロハゼ	<i>Glossogobius olivaceus</i>		○			
	ヌマチチブ	ヌマチチブ	<i>Tridentiger brevispinis</i>		○			
	チチブ属	チチブ属	-					
	ハゼ類	ハゼ類	-	○		○		
	イダテギンボ	イダテギンボ	<i>Omobranchus punctatus</i>		○	○		
	ナベカ	ナベカ	<i>Omobranchus elegans</i>					
	イソギンボ	イソギンボ	<i>Parablennius yatabei</i>		○			

綱	科	種名		東京	千葉	神奈川	環境省レッドリスト/ 海洋生物レッドリス ト※	生態系被害防止 外来種リスト※
		和名	学名	多 摩 川 河 口 大 田 区 側	浦 安 市 日 の 出 地 先	潮 彩 の 渚		
							カテゴリ	カテゴリ
	コチ	マゴチ	<i>Platycephalus sp.2</i>					
	ネズッポ	ネズミゴチ	<i>Repomucenus curvicornis</i>		○			
	ギマ	ギマ	<i>Triacanthus biaculeatus</i>			○		
	メダカ	ミナミメダカ	<i>Oryzias latipes</i>				絶滅危惧II類 (VU)	
	タイ	キチヌ	<i>Acanthopagrus latus</i>					
		クロダイ	<i>Acanthopagrus schlegelii</i>			○		
	ニシン	コノシロ	<i>Konosirus punctatus</i>	○				
	コイ	マルタ	<i>Pseudaspius brandtii maruta</i>					
		コイ(型不明)	-					
		ニゴイ属	-					
		ウグイ属	-					
	アジ	ギンガメアジ	<i>Caranx sexfasciatus</i>					
	スズキ	スズキ	<i>Lateolabrax japonicus</i>	○				
	ヒイラギ	ヒイラギ	<i>Nuchequula nuchalis</i>					
	フグ	クサフグ	<i>Takifugu alboplumbeus</i>					
	シマイサキ	コトヒキ	<i>Terapon jarbua</i>			○		
	ヨウジウオ	ヨウジウオ	<i>Syngnathus schlegelii</i>			○		
鳥	ハト	カワラハト	<i>Columba livia</i>					
	カモ	カルガモ	<i>Anas zonorhyncha</i>	○				
	カモメ	ウミネコ	<i>Larus crassirostris</i>	○				
		コアジサシ	<i>Sterna albifrons</i>					
	サギ	ダイサギ	<i>Ardea alba</i>	○				
		コサギ	<i>Egretta garzetta</i>					
		アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>	○				
	ウ	カワウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>					
		ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>					
	セッカ	セッカ	<i>Cisticola juncidis</i>					

表 8-3 干潟調査で確認された生物種（過年度との比較）

綱	科	種名		調査年				
		和名	学名	令和2年 (1団体1地点)	令和3年 (1団体1地点)	令和4年 (7団体5地点)	令和5年 (6団体6地点)	令和6年 (5団体3地点)
被子植物	アマモ	コアマモ	<i>Zostera japonica</i>			○	○	
海藻	イソカイメン	ナミイソカイメン	<i>Halichondra (Halichondria) panicea</i>			○		
蛸虫	オキクラゲ	アカクラゲ	<i>Chrysaora pacifica</i>		○	○	○	○
	ミズクラゲ	ミズクラゲ	<i>Aurelia cf. coerulesa</i>		○	○	○	○
ヒドロ虫	ハナガサクラゲ	ハナガサクラゲ	<i>Olinidias formosa</i>	○		○		
花虫	タテジマイソギンチャク	タテジマイソギンチャク	<i>Diadumene lineata</i>			○	○	○
	ホウザウソギンチャク	ホウザウソギンチャク	<i>Synandwaka hozawai</i>				○	○
	ウミサボテン	ウミサボテン	<i>Cavernularia obesa</i>				○	
多毛	ゴカイ	ヤマトカワゴカイ	<i>Hediste diadroma</i>			○	○	○
		カワゴカイ属	<i>Hediste</i> sp.			○	○	
		アシナガゴカイ	<i>Neanthes succinea</i>					○
		オウキゴカイ	<i>Neotomoechis latipoda</i>					○
		クマドリゴカイ	<i>Parinereis cultrifera</i>					○
		デンガクゴカイ	<i>Pseudonereis variegata</i>					○
		コケゴカイ	<i>Simplisetia erythraeensis</i>					○
		ミナシシロガネゴカイ	<i>Nephtys polybranchia</i>					○
		-	-	○	○	○	○	○
	イトゴカイ	-	-			○	○	○
	カンザシゴカイ	-	-				○	○
	イソメ	イワムシ	<i>Marphysa sanguinea</i>			○		
		イワムシ 種群	-				○	○
	ビタイソメ	アカムシ	<i>Halla okudai</i>				○	○
	ナナテイソメ	スゴカイイソメ	<i>Diopatra sugokai</i>			○	○	○
	ギボシイソメ	コアシギボシイソメ	<i>Scoletoma nipponica</i>				○	○
	スピオ	Paraprioprio 属	-				○	
		シノハネエラスピオ	<i>Paraprioprio patiens</i>					○
		マダラスピオ	<i>Polydora brevialba</i>					○
		-	-					○
	チロリ	ヒガタチロリ	<i>Glycera macintoshi</i>					○
		チロリ属の一種・未同定	<i>Glycera</i> sp.	○		○		○
	ミズヒキゴカイ	ミズヒキゴカイ	<i>Cirriformia tentaculata</i>	○				○
		ミズヒキゴカイ 種群	-				○	○
	タマシキゴカイ	タマシキゴカイ	<i>Arenicola brasiliensis</i>			○	○	○
	オフェリアゴカイ	ツツオオフェリア	<i>Armandia cf. amakusaensis</i>				○	○
	ツバサゴカイ	ツバサゴカイ	<i>Chaetopterus cautus</i>				○	○
	シリシ	シロマダラシリシ	<i>Syllis adamantea</i>				○	○
	エロコムシ	ハモチウロコムシ	<i>Lipidonotus dentatus</i>				○	○
(紐形動物門)							○	○
腹足	ニシキウスガイ	イボキサゴ	<i>Umbonium moniliferum</i>	○			○	○
	ムシロガイ	アラムシロガイ	<i>Reticunassa festiva</i>		○	○	○	○
	アッキガイ	イボニシ	<i>Thais claviera</i>			○	○	○
		アカニシ	<i>Rapana venosa</i>			○	○	○
	ウミニナ	ホノウミニナ	<i>Batillaria atraumataria</i>			○	○	○
	カノキセウタ	ヤミオキセウタ	<i>Melanochlamys fukudai</i>			○	○	○
	タマキビガイ	タマキビ	<i>Littorina brevicula</i>			○		○
	カワザンショウガイ	アラレタマキビ	<i>Nodilittorina radiata</i>					○
		カワザンショウガイ	<i>Assiminea</i>	○				
	タマガイ	ホノヤツメタ	<i>Neverita didyma hosoyai</i>				○	
	オオシイノミガイ	ムラクモキジビキガイ	<i>Iaponactaeon nipponensis</i>				○	
	アッキガイ	レイシガイ	<i>Reishia bronni</i>					○
	カリバガサ	シマメノウフネガイ	<i>Crepidula onyx</i>					○
	トウガタガイ	ヒガタヨコトカケギ	<i>Cingulina</i> sp.					○
	ハコミツラガイ	コメツガイ	<i>Retusa insigens</i>					○
	リュウテン	コンダカカンガラ	<i>Tequila rustica</i>					○
二枚貝	イガイ	ホトギスガイ	<i>Musculista senhousia</i>			○	○	○
		ムササキイガイ	<i>Mytilus galloprovincialis</i>				○	○
		ミドリイガイ	<i>Perna viridis</i>				○	○
		コウロンエンカワヒバリガイ	<i>Xenostrobus securis</i>			○	○	○
		カワヒバリガイ	<i>Limnoperna fortunei</i>			○	○	○
	イタボガキ	マガキ	<i>Crassostrea gigas</i>	○		○	○	○
	イシガイ	カラスガイ	<i>Cristaria plicata</i>		○			
	マテガイ	マテガイ	<i>Solen strictus</i>	○		○	○	○
		エノマテガイ	<i>Solen krusensteri</i>					○
	オキナガイ	フトオリガイ	<i>Exolaternula liautaudi</i>	○		○	○	○
	シジミ	ヤマトシジミ	<i>Corbicula japonica</i>	○	○	○	○	○
		タイワンシジミ	<i>Corbicula fluminea</i>			○		
		-	-			○		
	フナガタガイ	ウネナシトマヤガイ	<i>Trapezium litatum</i>					
	マルスダレガイ	オキシジミ	<i>Cyclina aff. sinensis</i>	○	○		○	○
		ホンビノスガイ	<i>Mercenaria mercenaria</i>			○		
		ハマグリ	<i>Meretrix lusoria</i>	○		○	○	○
		ハマグリ属の一種・未同定	<i>Meretrix</i> sp.			○		
		アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>	○	○	○	○	○
		カガミガイ	<i>Dosinia japonica</i>				○	○
		デリハギガイ	<i>Lasaea undulata</i>					○
	カキ	-	-		○			
	シオサザナミガイ	イノシジミ	<i>Nuttallia olivacea</i>	○	○	○		
	ニッコウガイ	サビシラトリ	<i>Macoma contabulata</i>			○		○
		ヒメシラトリ	<i>Macoma incongrua</i>					○
		サクラガイ	<i>Nitidollina hokkaidoensis</i>					○
	バカガイ	バカガイ	<i>Mactra chinensis</i>				○	○
		シオフキガイ	<i>Mactra quadrangularis</i>	○	○	○		○
	チトセノハナガイ	チヨノハナガイ	<i>Raeta pulchella</i>				○	
	イワホリガイ	ウスカラシオツガイ	<i>Pericula</i> sp.					○
	フネガイ	サルボウガイ	<i>Anadara kuokushimensis</i>					○
多板	ケハガセガラガイ	ヒメケハガセガラガイ	<i>Acanthochitona achates</i>				○	○
顎脚	フジツボ	ヨーロッパフジツボ	<i>Amphibalanus improvisus</i>			○	○	
		アフリカフジツボ	<i>Amphibalanus eburneus</i>			○		
		タテジマフジツボ	<i>Amphibalanus amphitrite</i>			○	○	○
		ドロフジツボ	<i>Fistulobalanus kondakovi</i>				○	
		シロスジフジツボ	<i>Balanus albicostatus</i>					○
		-	-	○	○	○	○	○
	イワフジツボ	イワフジツボ	<i>Chthamalus challengeri</i>				○	○
	エボシガイ	エボシガイ	<i>Leas anatifera</i>				○	○
	アナムシ	キタアナムシ	<i>Ligia cinerascens</i>		○		○	○
		アナムシ	<i>Ligia exotica</i>	○		○		○
		-	-				○	○
	ミウガイ	カメノテ	<i>Pollicipes mitella</i>				○	○
軟甲	ヤドカリ	テナガツノヤドカリ	<i>Diogenes nitidimanus</i>			○	○	○
		コブコバサミ	<i>Clibanarius infaspinatus</i>			○	○	○
		-	-	○				
	ホンヤドカリ	ユビナガホンヤドカリ	<i>Pagurus minutus</i>			○	○	○
	アナンジャコ	アナンジャコ	<i>Upogebia makar</i>	○		○	○	○
	エビシヤコ	ウラエビシヤコ	<i>Craeon urai</i>			○	○	○
	ハサミシヤコエビ	ハサミシヤコエビ	<i>Laomedia astacina</i>	○				
	コメツキガニ	チゴガニ	<i>Ilyoplax pusilla</i>		○		○	○
		コメツキガニ	<i>Scopimera globosa</i>	○		○	○	○
	オサガニ	オサガニ	<i>Macrophthalmus abbreviatus</i>		○			
		ヤマトオサガニ	<i>Macrophthalmus japonicus</i>	○	○		○	○
	ベンケイガニ	ベンケイガニ	<i>Orisarma intermedium</i>	○		○	○	
		クロベンケイガニ	<i>Orisarma debaari</i>	○		○	○	
		カクベンケイガニ	<i>Parasarma pictum</i>	○		○	○	
		アカテガニ	<i>Chironantes haematocheir</i>	○			○	
		ヒメベンケイガニ	<i>Nanosesarma minutus</i>				○	

綱	科	種名		調査年				
		和名	学名	令和2年 (1団体1地点)	令和3年 (1団体1地点)	令和4年 (7団体5地点)	令和5年 (6団体6地点)	令和6年 (5団体3地点)
	イワガニ	オキナガレガニ	<i>Planes major</i>				○	
		モクスガニ	<i>Hemiraparus penicillatus</i>	○		○	○	○
		タカノクサイソガニ	<i>Hemiraparus takanoi</i>	○	○	○	○	○
		ヒメイソガニ	<i>Getice depressus</i>		○	○	○	
		イソガニ	<i>Hemiraparus sanguineus</i>			○	○	○
	コブシガニ	アシハラガニ	<i>Helice tridens</i>	○			○	○
		-	-				○	○
		マメコブシガニ	<i>Philyra pisum</i>		○	○	○	○
		ヒラコブシ	<i>Philyra syndactyla</i>				○	
		スナガニ	<i>Ocypode stimpsoni</i>					○
	イノオウギガニ	スベスベオウギガニ	<i>Sphaerodius nitidus</i>					
		シワオウギガニ	<i>Macromedaeus distinguendus</i>					
		同定できなかったカニ	-	○				
		テナガエビ	<i>Evonhemor orientis</i>	○		○	○	○
		-	<i>Macrobrachium nipponense</i>			○	○	○
	ユンボソコエビ	スジエビ	<i>Palaemon paucidens</i>			○		
		ユビナガスジエビ	<i>Palaemon macrodactylus</i>	○		○	○	○
		イノスジエビ	<i>Palaemon pacificus</i>					○
		スジエビモドキ	<i>Palaemon serrifer</i>					○
		スジエビ属	-				○	
	ヒゲナガモエビ	ニホンドロソコエビ	<i>Grandiderella japonica</i>					○
		-	-				○	
		アカシマモエビ	<i>Lysmata vittata</i>				○	
		テッポウエビ	<i>Alpheus kobidenus</i>			○		
		フトオビノテッポウエビ類	<i>Alpheus sp.</i>			○		
	スナモグリ	テッポウエビ	<i>Alpheus brevirostratus</i>					○
		ニホンスナモグリ	<i>Callinassa japonica</i>		○	○		
		スナウミナナフシ	<i>Cyathura muromiensis</i>	○	○	○	○	○
		ウミナナフシ	-				○	○
		ヨコエビ	-	○			○	○
	カクレガニ	ヒゲナガヨコエビ	<i>Amphithoe valida</i>					○
		モズミヨコエビ	<i>Amphithoe valida</i>					○
		カクレガニ	<i>Arcotheres siensis</i>			○		
		キンモンガニ	<i>Matuta victor</i>			○		
		カルベエビ	<i>Marsupenaeus japonicus</i>			○		
	コブブムシ	コブブムシ	<i>Gnathosphaeroma sp.</i>			○		
		シリケンウミセミ	<i>Dmoldes dentisnus</i>				○	
		スナホリムシ	-			○		
		フレカラ	<i>Caprella penantis</i>					○
		トゲフレカラ	<i>Caprella scaura</i>					○
甲殻	ガザミ	ガザミ	<i>Portunus trituberculatus</i>			○		○
		タイワンガザミ	<i>Portunus nalaicus</i>				○	
		イシガニ	<i>Charadrius japonica</i>				○	○
		ミドリガニ	<i>Carcinus aestuarii</i>			○	○	
		-	-					
昆虫	ヒシバツタ	バツタ	<i>Oedaleus infernalis</i>			○		
		バツタ	<i>Locusta migratoria</i>			○		
		バツタ	<i>Acrida cinerea</i>			○		
		バツタ	<i>Gonista bicolor</i>			○		
		バツタ	<i>Aiolopus thalassinus tamulus</i>			○		
	オンブバツタ	オンブバツタ	<i>Atractomorpha lata</i>			○		
		キリギリス	<i>Conocerphalus maculatus</i>			○		
		カマキリ	<i>Tenodera angustipennis</i>			○		
		カマキリ	<i>Leucobremus sp.</i>			○		
		カマキリ	<i>Teleogryllus emma</i>			○		
	トンボ	トンボ	<i>Polionemobius mikado</i>			○		
		トンボ	<i>Sympetrum frequens</i>			○		
		イトトンボ	<i>Coenagrion sp.</i>				○	
		スズメガ	<i>Theetstra odenlandiae</i>			○		
		シロチョウ	<i>Eurema mandarina</i>			○		
	ムシヒキアブ	ムシヒキアブ	<i>Cophinopoda chinensis</i>			○		
		オオハサミムシ	<i>Labidura riparia</i>			○		
		アメンボ	<i>Cerix latidominis</i>				○	
		アメンボ	<i>Ammothos hilgendorfi</i>				○	○
		ウミグモ	-					
海鞘	シロボヤ	シロボヤ	<i>Styela plicata</i>			○	○	
		エボヤ	<i>Styela clava</i>				○	
		エボヤ	<i>Ciona intestinalis</i>					○
		エボヤ	<i>Dusvatis akaki</i>			○		○
		エボヤ	<i>Sardinella zunasi</i>			○		○
軟骨魚	サッパ	サッパ	<i>Mugil cf. cephalus</i>			○	○	○
		サッパ	<i>Acanthogobius flavimanus</i>			○	○	○
		サッパ	<i>Acanthogobius lineatus</i>			○	○	○
		サッパ	<i>Luciogobius guttatus</i>		○	○	○	○
		サッパ	<i>Gymnogobius macrognathos</i>			○		
	ハゼ	ハゼ	<i>Gymnogobius uchidai</i>			○		
		ハゼ	<i>Tridentiger bifasciatus</i>			○		○
		ハゼ	<i>Tridentiger obscurus</i>			○		○
		ハゼ	<i>Mugilogobius abei</i>				○	
		ハゼ	<i>Pseudogobius masago</i>				○	
	マゴチ	マゴチ	<i>Favonigobius gymnauchen</i>				○	○
		マゴチ	<i>Acentrogebius sp.2</i>				○	
		マゴチ	<i>Chaenogobius annularis</i>				○	○
		マゴチ	<i>Tridentiger trigonocephalus</i>				○	
		マゴチ	<i>Gymnogobius breunlii</i>				○	
	ネズミゴチ	ネズミゴチ	<i>Chaenogobius gulosus</i>					○
		ネズミゴチ	<i>Glossogobius olivaceus</i>					○
		ネズミゴチ	<i>Tridentiger brevispinis</i>					○
		ネズミゴチ	-				○	
		ネズミゴチ	-	○			○	○
	イサキ	イサキ	<i>Omobranchius punctatus</i>			○	○	○
		イサキ	<i>Omobranchius elegans</i>				○	○
		イサキ	<i>Parablennius yatahei</i>				○	○
		イサキ	<i>Platycephalus sp.</i>			○		
		イサキ	<i>Inegocia ochiaii</i>			○		
	メダカ	メダカ	<i>Platycephalus sp.2</i>				○	
		メダカ	<i>Ropomucenus curvicornis</i>				○	○
		メダカ	<i>Triacanthus biaculeatus</i>			○	○	○
		メダカ	<i>Plectorhynchus cinctus</i>			○		
		メダカ	<i>Oryzias latipes</i>				○	
	クロダイ	クロダイ	<i>Acanthopagrus latus</i>				○	
		クロダイ	<i>Acanthopagrus schlegelii</i>				○	○
		クロダイ	<i>Konosirus punctatus</i>				○	○
		クロダイ	<i>Pseudaspis brandtii maruta</i>				○	
		クロダイ	-				○	
	コイ	コイ	-				○	
		コイ	-				○	
		コイ	-				○	
		コイ	-				○	
		コイ	-				○	
	アジ	アジ	<i>Caranx sexfasciatus</i>				○	
		アジ	<i>Lateolabrax japonicus</i>				○	○
		アジ	<i>Nachosoma nuchalis</i>				○	
		アジ	<i>Takifugu rubripes</i>				○	
		アジ	<i>Tarapon jacobus</i>					○
	ヨウジウオ	ヨウジウオ	<i>Syngnathus schlegelii</i>					○
		ヨウジウオ	-					○

綱	科	種名		調査年				
		和名	学名	令和2年 (1団体1地点)	令和3年 (1団体1地点)	令和4年 (7団体5地点)	令和5年 (6団体6地点)	令和6年 (5団体3地点)
鳥	ハト	カワラハト	<i>Columba livia</i>		○	○	○	
	シギ	チュウシヤクシギ	<i>Numenius phaeopus</i>	○				
		キアシシギ	<i>Heteroscelus brevipes</i>	○		○		
	カモ	カルガモ	<i>Anas zonorhyncha</i>			○	○	○
	カモメ	ウミネコ	<i>Larus crassirostris</i>	○	○	○	○	○
		ゴアサシ	<i>Sterna albilrons</i>			○	○	
	サギ	ダイサギ	<i>Ardea alba</i>		○	○	○	○
		コサギ	<i>Egretta garzetta</i>	○	○	○	○	
		アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>			○		○
	ウ	カワウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	○	○	○	○	
	チドリ	メダイチドリ	<i>Charadrius mongolus</i>			○		
	カラス	ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>		○			
		ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	○	○	○	○	
	ヒバリ	ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>	○	○			
	ツバメ	ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	○	○	○		
	ヨシキリ	オオヨシキリ	<i>Acrocephalus orientalis</i>		○			
	セウカ	セウカ	<i>Cisticola lucidus</i>	○		○	○	
	ムクドリ	ムクドリ	<i>Spodopus cineraceus</i>	○	○			
	スズメ	スズメ	<i>Passer montanus</i>	○	○	○		
	セキレイ	ハクセキレイ	<i>Motacilla alba lugens</i>		○			
	アトリ	カワラヒワ	<i>Chloris sinica</i>	○		○		

(4) カニ生息一斉調査について

令和6年度は2団体によりカニ生息一斉調査が実施されました（調査シートの例は図8-2）。なお、調査結果については干潟調査の結果（表8-2）に含まれています。

とうきょうわん せい そく いっ せい ちようき ちようき 東京湾 カニ生息一斉調査 調査シート

(参加者用)

1. 調査情報

調査した日時	令和 年 月 日 時～時	調査した人	☐ 小学生未満 ☐ 小学生 ☐ 中学生 ☐ 高校生 ☐ 大人
天気/気温	☐ 晴れ ☐ くもり ☐ 雨 / 気温 (摂氏)	調査した場所	☐ 砂地 ☐ 泥地 ☐ ヨシ原 ☐ 林、草地 ☐ 買水の水邊 ☐ ちこそろ ☐ コンクリート ☐ カキの岩

2. 観察された生き物

観察された生き物	発見数 (見つけたらチェック！)	見つけた場所の様子 カニの特徴 (大きさ、色など)
チチュウカイミドリガニ (P20, P21)	☐ 1匹 ☐ 2匹 ☐ 3匹以上 (匹)	
マメコブシガニ (P15, P21)	☐ 1匹 ☐ 2匹 ☐ 3匹以上 (匹)	
クフサイソガニ (P20, P21)	☐ 1匹 ☐ 2匹 ☐ 3匹以上 (匹)	
タカノケフサイソガニ (P20, P21)	☐ 1匹 ☐ 2匹 ☐ 3匹以上 (匹)	
ハマガニ (P16, P22)	☐ 1匹 ☐ 2匹 ☐ 3匹以上 (匹)	
アシハラガニ (P16, P22)	☐ 1匹 ☐ 2匹 ☐ 3匹以上 (匹)	
アカデガニ (P16, P22)	☐ 1匹 ☐ 2匹 ☐ 3匹以上 (匹)	
クロベンケイガニ (P16, P22)	☐ 1匹 ☐ 2匹 ☐ 3匹以上 (匹)	
クシデガニ (P16, P22)	☐ 1匹 ☐ 2匹 ☐ 3匹以上 (匹)	
ウモレベンケイガニ (P16, P22)	☐ 1匹 ☐ 2匹 ☐ 3匹以上 (匹)	
イシガニ (P16, P22)	☐ 1匹 ☐ 2匹 ☐ 3匹以上 (匹)	
コメツキガニ (P17, P22)	☐ 1匹 ☐ 2匹 ☐ 3匹以上 (匹)	
チゴガニ (P17, P22)	☐ 1匹 ☐ 2匹 ☐ 3匹以上 (匹)	
オサガニ (P17, P22)	☐ 1匹 ☐ 2匹 ☐ 3匹以上 (匹)	
ヤマトオサガニ (P17, P22)	☐ 1匹 ☐ 2匹 ☐ 3匹以上 (匹)	
産卵が分らなかったカニ	☐ 1匹 ☐ 2匹 ☐ 3匹以上 (匹)	

種類が分からないときは、「干潟イベントフィールド図鑑（日本国環境地保全連合）」が参考になるよ！（カニの図鑑がこちらに、この図鑑のページが書いてあるよ！）

裏面のスケッチ欄も使ってみてね！

もし気に入ったカニがいたら、スケッチしてみよう！

カニの名前	
気に入ったポイント	

（ここに絵を書いてね）

※提出されたスケッチの一部は報告書「東京湾環境一斉調査の結果」に掲載されます。

～・・・ご参加されたカニ生息一斉調査についてアンケートにご協力ください～・・・

ご参加者のご年齢	☐ ～19歳 ☐ 20～29歳 ☐ 30～39歳 ☐ 40～49歳 ☐ 50～59歳 ☐ 60歳～
お住まいの地域	☐ 東京都 ☐ 埼玉県 ☐ 千葉県 ☐ 神奈川県 ☐ その他()
ご参加のきっかけ (複数回答可)	☐ ホームページ ☐ 知人 ☐ 雑誌・チラシ ☐ SNS ☐ その他()
今回のカニ一斉調査の満足度	☐ 大変よかった ☐ ややよかった ☐ 普通 ☐ ややよかった ☐ よかった
その他、ご意見・ご感想、改善点など お聞かせください	

図 8-2 カニ生息一斉調査の調査シート

8-2 その他の調査

(1) 調査参加機関

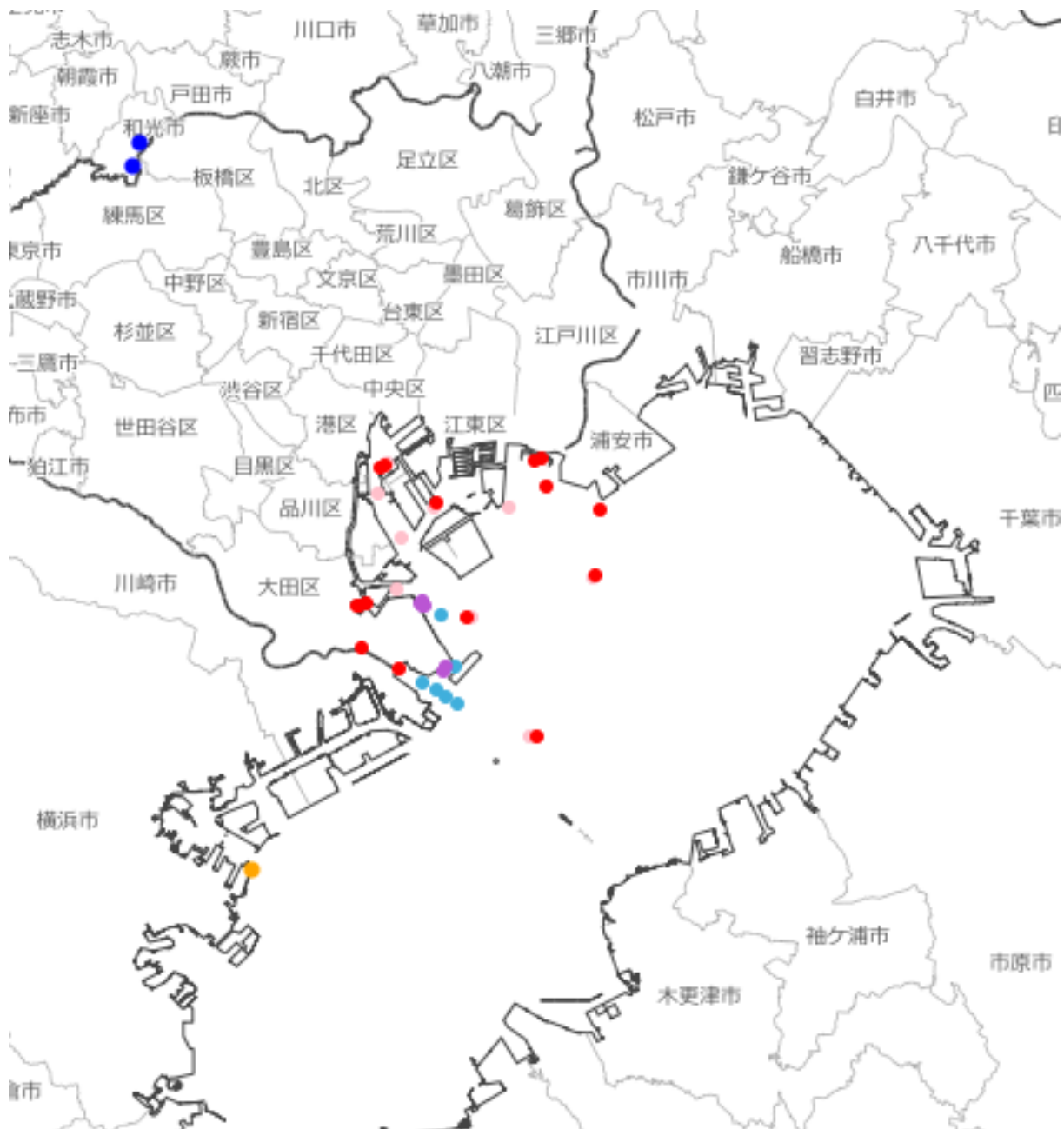
令和6年度は、4団体から干潟以外（河川、沖合など）の生物・プランクトン調査について報告がありました（表8-4）。

表 8-4 その他の調査の実施実績

レポート番号 掲載ページ	実施・主催機関	調査場所・ 地点名	実施日	調査内容
① p. II-1	国土交通省関東地方整備局 東京空港整備事務所	東京湾内	(1) 8月8日 (2) 8月1日 8月8日	(1) 海底に生息する底生生物 (2) 浅場に生息する水生生物
② p. II-10	東京都環境局自然環境部 水環境課	東京湾内	(1) 8月13日 (2) 8月5日 (3) 9月27日 (4) 8月2日 (5) 8月19日	(1) プランクトン (2) 稚魚 (3) 成魚 (4) 鳥類 (5) 底生生物
③ p. II-19	東京都板橋区	白子川 (東埼橋、 白藤橋)	8月1日	魚類、底生動物
④ p. II-30	横浜市港湾局	横浜港本牧 沖	8月27日 8月28日	海藻類、水生生物 及び着生生物等

(2) 調査実施地点

調査は、図8-3に示す地点で実施されました。



出典：海洋状況表示システム(<https://www.msil.go.jp>)、国土地理院 (GSI)

- 国土交通省 関東地方整備局 東京空港整備事務所(海底底生生物) (報告書番号①)
- 国土交通省 関東地方整備局 東京空港整備事務所(浅場水生生物) (報告書番号②)
- 東京都環境局自然環境部水環境課(プランクトン調査) (報告書番号③)
- 東京都環境局自然環境部水環境課(東京都内湾部、浅海部、干潟部) (報告書番号④)
- 東京都板橋区(白子川(東埼玉橋、白藤橋)) (報告書番号⑤)
- 横浜市港湾局(横浜港本牧沖) (報告書番号⑥)

図 8-3 その他の調査の実施地点

(3) 干潟以外の調査の結果

干潟以外の調査について、報告された結果の概要は以下のとおり。

- ① 国土交通省関東地方整備局東京空港整備事務所が羽田空港付近で行った底生生物調査では、シノブハネエラスピオ、ハナオカカギゴカイ、イトエラスピオ（環形動物門）、アサリ、アラムシロガイ等が確認された。
- ② 国土交通省関東地方整備局東京空港整備事務所が大田区で行った浅場生物調査では、ウミエラ目、ウミサボテン、アカニシ、イトマキヒトデ、シロボヤ、イソギンチャク目等が確認された。
- ③ 東京都が行ったプランクトン赤潮調査においては、細胞数では珪藻の *Skeletonema costatum* が最多となり、次いで *Chaetoceros* spp.、*Thalassiosira* spp. の順に多く確認された。動物プランクトンでは繊毛虫類の *Oligotrichida* が多く確認された。
- ④ 東京都が行った東京都の干潟部における稚魚調査においては、全地点でビリンゴ、マハゼ、ギマが確認された。東京都の内湾部、浅海部における成魚調査においては、ツバクロエイ、ホンビノスガイ、サルボウガイのみ確認された。東京都の内湾部、浅海部、干潟部における底生生物調査においては、ヤマトシジミ、アサリ、ホンビノスガイ等が確認された。成魚調査及び底生生物調査の海域は、下層で貧酸素状態、水底付近は無酸素状態の地点もあった。
- ⑤ 板橋区が白子川で行った調査では、魚類調査においては、二ホンウナギ、ドジョウ、ヌマチチブ等が確認された。底生動物調査においては、チリメンカワニナ、シマイシビル、カワリヌマエビ属、コオニヤンマ等が確認された。
- ⑥ 横浜市港湾局が行った横浜港本牧沖の調査では、珪藻綱、海綿動物門、イソギンチャク目、イトマキヒトデ、シロボヤ、ウスカラシオツガイ、ヒバリガイ、ホトトギスガイ等が確認された。

8-3 「東京湾生物情報とりまとめおせっ会」による取組

(1) 取組の概要

「東京湾生物情報とりまとめおせっ会」が、様々な団体に観察結果の提供を呼びかけ、11団体が24地点において2024年に東京湾で観察した生物種の取りまとめを実施しました（表8-5）。

※一部には、8-1又は8-2との重複があります。

表 8-5 「東京湾生物情報とりまとめおせっ会」が取りまとめた調査の実施実績

レポート番号 掲載ページ	実施・主催機関	調査場所・地点名	実施日
① p. III-1	海をつくる会 大田区環境マイスターの会 公益財団法人日本野鳥の会 東京港水中生物研究会 NPO 法人生態教育センター 江戸川区こども未来館 浦安水辺の会・浦安三番瀬を大切にする会 浦安市三番瀬環境観察館 NPO 法人行徳ほごクラブ ふなばし三番瀬環境学習館 日本安全潜水協会	東京湾全域 （追加報告として葛 西臨海公園、多摩川 河口、左近川含む）	令和6年 1月～12 月

9. 環境啓発活動等のイベント開催実績

東京湾の海域及び流域河川の水質改善等に関する普及啓発活動を含むイベントは、表 9-1 のとおり、7 件の環境啓発活動等のイベントが開催されました（募集時に対象期間とした 7 月～10 月以外のものも含まれます。）。

次ページ以降に各イベントのレポートを掲載します。

表 9-1 環境啓発活動の開催実績（実施日順）

報告書 番号	開催場所	実施日	活動内容等	主催
1	旭化成株式会社 製造統括本部 川崎製造所	6 月 1 日～ 6 月 30 日	製造所環境月間の取 り組み	旭化成株式会社 製造統括本部川崎製造所 環境安全部
2	富津市下州海岸	6 月 8 日	富津海岸清掃活動	日本製鉄株式会社 技術開発本部
3	株式会社日本触媒 川崎製造所	6 月 24 日	2024 年度環境大会	株式会社日本触媒 川崎製造所
4	横浜港湾空港技術 調査事務所 生物共生型護岸	8 月 2 日	外来海洋生物観察会	横浜港湾空港技術調査事 務所
5	横浜港湾空港技術 調査事務所 生物共生型護岸	8 月 20 日	江戸前アサリわくわ く調査	横浜港湾空港技術調査事 務所
6	東亜合成株式会社 川崎工場	8 月 20 日	2024 年度第 3 回構 内一斉清掃	東亜合成株式会社 川崎工場
7	桜橋（東京都台東区 今戸 1 丁目 1 番付 近）	11 月 2 日	令和 6 年度隅田川水 生生物調査見学会	台東区役所 環境課

■イベントレポート①

主催機関	イベント名
旭化成(株) 製造統括本部 川崎製造所 環境安全部	製造所環境月間の取り組み

【イベント概要】

環境月間に合わせて、製造所内で各種取り組みを実施した。

【開催時期】

令和6年6月1日～6月30日

【場所】

旭化成(株)製造統括本部川崎製造所内の各部署

【主なイベント内容】

製造所内の各部署で下記1～3の活動を実施した。活動の結果は「活動整理表」にまとめ、環境安全部に提出した。

<活動内容>

1. 公害発生源施設及び公害防止施設の総点検
2. 従業員への環境研修及び啓発
(部場における環境関連設備等に関する教育・周知、トラブル時の対応訓練、等)
3. 施設内・周辺の美化及び環境保全対策
(排水溝の清掃、通路の清掃、施設内の除草、配水管の清掃、等)

■イベントレポート②

主催機関	イベント名
日本製鉄株式会社技術開発本部	富津海岸清掃活動
参加人数とそのうちの子供の数	
参加合計人数 113 名 そのうち 小学生 5 名、中学生 0 名	

【イベント概要】

日本製鉄㈱技術開発本部富津地区の勤務者から有志を募り、地元である富津市下洲海岸の清掃活動を実施しました。

【開催時期】

令和 6 年 6 月 8 日

【場所】

富津市下洲海岸

【主なイベント内容】

日本製鉄㈱技術開発本部富津地区の勤務者 113 名が参加して、10時～11時まで清掃活動実施しました。海開き前に海岸のごみが一掃され、美しい砂浜になりました。

(活動状況)



(回収されたごみ)



■イベントレポート③

主催機関	イベント名
株式会社日本触媒 川崎製造所	2024年度 環境大会

【イベント概要】

製造所で従業員、協力会社員を対象に環境大会を開催し、174名が参加した。

【開催時期】

令和6年6月24日

【場所】

自社（千鳥工場をメイン会場として、千鳥工場と浮島工場を Teams で繋ぎ、会場を分散して開催）

【主なイベント内容】

従業員及び協力会社員に製造所の環境負荷量推移や環境関連の規制動向等について説明した。

■イベントレポート④

主催機関	イベント名
横浜港湾空港技術調査事務所	外来海洋生物観察会
参加人数とそのうちの子供の数	
参加合計人数 20 名 そのうち 小学生 12 名	

【イベント概要】

小学生（親子）を対象に、干潟の外来生物観察会を行いました。

【開催時期】

令和6年8月2日

【場所】

横浜港湾空港技術調査事務所

生物共生型護岸「潮彩の渚」（人工干潟）



【主なイベント内容】

メインテーマの外来海洋生物（ミドリイガイ等）を中心に、干潟の生物を調査しました。その後は顕微鏡で拡大などしながら、生物の様子を観察しました。



■イベントレポート⑤

主催機関	イベント名
横浜港湾空港技術調査事務所	江戸前アサリわくわく調査
参加人数とそのうちの子供の数	
参加合計人数 29 名 そのうち 小学生 16 名	

【イベントの概要】

小学生（親子）を対象に、東京湾のアサリがいつ・どこでわくのかを調べる江戸前アサリ「わくわく」調査を実施しました。

【開催日】

令和 6 年 8 月 20 日

【場所】

横浜港湾空港技術調査事務所

生物共生型護岸「潮彩の渚」（人口干潟）



【主なイベント内容】

25 cm×25 cm×10 cmの「わく」内にどれだけのアサリが「わく」かを調査。上段 4 箇所、中段 8 箇所 計 12 箇所調査しました。



■イベントレポート⑥

主催機関	イベント名
東亜合成(株)川崎工場	2024年度第3回工場一斉清掃
参加人数とそのうちの子供の数	
参加合計人数 20 名	
そのうち 小学生 0 名、中学生 0 名	

実施日：2024年8月20日（火）

従業員と構内協力事業所員が実施

■イベントレポート⑦

主催機関	イベント名
台東区役所 環境課	令和6年度隅田川水生生物調査見学会
参加人数とそのうちの子供の数	
参加合計人数10名	
そのうち 小学生 5名、中学生0名	

【イベント概要】

小学生を対象に、隅田川の水生生物について学習してもらいました。

【開催時期】

令和6年11月2日

【場所】

桜橋（東京都台東区今戸1丁目1番付近）

【主なイベント内容】

台東区在住又は在学の小学生15組を募集し、隅田川水生生物調査で捕獲した生き物の観察と調査方法について専門家からお話してもらいました。

10. 用語解説

表 10-1 水質指標について

項目	説明	環境との関連
溶存酸素量 (DO)	水中に溶けている酸素量のこと で、酸素供給（大気からの溶解や植物プランクトンを含む藻類による光合成など）と消費（有機物の分解、生物の呼吸など）や移流・拡散のバランスを示します。水中に溶ける酸素量は水温が高くなると減少し、水温 20℃の時に約 9 mg/L で飽和状態となります。底層溶存酸素量（底層 DO）とは海底から 1 m 以内の底層で測定された溶存酸素量のことです。	貧酸素状態が続くと、好気性微生物（酸素を必要とする生物）にかわって嫌気性微生物（酸素を必要としない生物）が増殖するようになります。嫌気性微生物の活動により有機物の腐敗（還元・嫌氣的分解）が起こり、メタンやアンモニア、有害な硫化水素が発生し、悪臭の原因となります。また、溶存酸素濃度が 3 mg/L を切ると魚類を含めた多くの底生生物は生息できなくなり、生物多様性が低下します。
塩分	海水 1 kg 中に溶解している塩化ナトリウムなどを主とした固形物質の全量に相当します（絶対塩分）。海水には非常に多くの物質が溶け込んでおり、絶対塩分を直接測定することは困難なので、精度良く測定できる海水の電気伝導度から換算式を用いて仮定の塩分（実用塩分）を求める方法が一般的です。 ※単位は psu（実用塩分）	海面を通じての降水量と蒸発量の差や、河川水等による淡水流入の影響で変化します。低塩分の海水は密度が小さく、相対的に軽いため、表層に低塩分水が分布すると、底層と表層の海水が混ざりにくくなります。こうなると底層の水へ酸素が供給されにくくなることから底層の貧酸素化に影響します。
①透明度 ②透視度	どちらも水の清濁を表現するための指標です。①は直径 30 cm の白色円盤（セッキ板）を水中に沈め、水面から肉眼で確認できる限界の深さをいい、②は透明な管に試料を入れて上部から透視し、白色の標識盤に書かれた印が初めて明らかに確認できるときの水層の高さをいいます。	①、②ともに値が大きいほど水が澄んでいることを表します。主に①は海や湖沼、②は河川や排水の調査等で使用されます。一般的に、水中に浮遊物質や生物が多くなると値は低下します。ダイビングにおいても透視度という用語を用いますが、これは水平方向に見通せる距離を表したものです。

項目	説明	環境との関連
化学的 酸素 要求量 (COD)	水中の有機物を酸化剤で化学的に酸化する際に消費される酸化剤の量を酸素量に換算したもので、水中の有機物の分解に必要な酸素の量を表します。	湖沼・海域などの停滞性水域や藻類の繁殖する水域の有機汚濁の指標に用いられます。CODが高い状態が続くと、生物生息環境の多様性が低下し、魚類を含めた底生生物は生息できなくなります。
全窒素 (T-N)	全窒素・全リンは、湖沼や内湾などの閉鎖性水域の富栄養化の指標として用いられています。水中では、窒素・リンは、硝酸・リン酸イオンなどの無機イオンや含窒素・含リン有機物として存在しています。	窒素やリンは、植物の生育に不可欠なものです。過剰な窒素やリンが内湾や湖に流入すると富栄養化が進み、植物プランクトンの異常増殖を引き起こすことがあります。そのため、湖沼におけるアオコや淡水赤潮の発生、内湾における赤潮発生の直接の原因となります。
全リン (T-P)		
クロロ フィル- <i>a</i>		

○水質汚濁現象について

・赤潮（水質指標キーワード：全窒素、全リン、クロロフィル-*a*）

水中に生存している植物プランクトン等が異常に増殖し、水の色が著しく変わる現象です。水の色は原因となるプランクトンの種によって異なり、赤褐色、茶褐色などの色を呈します。赤潮が発生する背景としては、窒素やリンの流入負荷量増加に伴う水域の富栄養化が原因のひとつと指摘されています。大量に発生した赤潮生物は死滅後、微生物によって分解される過程で大量の酸素を消費するため、貧酸素水塊の形成要因のひとつとされています。この他にも、毒性を持つプランクトンによる赤潮は、その水域の生物に直接的に被害を与えることがあります。



写真：千葉港内（平成15年8月11日）



写真：隅田川河口部（平成22年7月5日）

・青潮（水質指標キーワード：DO）

富栄養化や有機物による水質汚濁の進んだ内海の底層では、大量発生したプランクトンの死骸が微生物に分解される過程で酸素が消費され、貧酸素水塊が形成されます。貧酸素水塊中では、底質中の硫黄化合物の還元が促進され、次第に水中への硫化水素の蓄積が進みます。このような水塊が風などによって表層まで湧き上がると、含まれていた硫化水素が酸素と反応して硫黄のコロイドを大量に生成します。コロイドは、太陽光を反射して海水を乳青色や乳白色に変色させます。青潮も赤潮と同様に水生生物の大量死を引き起こすなど、生物に被害を与えます。東京湾ではアサリの大量死が起こることもあります。



写真：羽田沖（平成16年8月18日）



写真：千葉港（平成23年8月30日）

・貧酸素水塊（水質指標キーワード：DO）

生物に影響を及ぼすほど酸素の濃度が低くなった水塊のことです。境界値についてはさまざまな指標がありますが、水産用水基準においては 4.3 mg/L が「底生生物の生息状況に変化を引き起こす臨界濃度」とされています。また、環境省が告示する生活環境の保全に関する環境基準において、生息段階において貧酸素耐性の低い水生生物が生息できる場を保全・再生する水域又は再生産段階において貧酸素耐性の低い水生生物が再生産できる場を保全・再生する水域の基準は 4.0 mg/L 以上、生息段階において貧酸素耐性の低い水生生物を除き、水生生物が生息できる場を保全・再生する水域又は再生産段階において貧酸素耐性の低い水生生物を除き、水生生物が再生産できる場を保全・再生する水域は 3.0 mg/L 以上とされています（詳しくは、<https://www.env.go.jp/kijun/mizu.html> をご覧ください）。

1 1. 問い合わせ先等

(1) 問い合わせ先

本資料の内容や東京湾環境一斉調査についてのお問い合わせ・ご意見は、下記連絡先までお願いします。

- 東京湾再生推進会議モニタリング分科会事務局
環境省水・大気環境局海洋環境課海域環境管理室 03-5521-8319
- 九都県市首脳会議環境問題対策委員会水質改善専門部会
令和6年幹事 千葉県環境生活部水質保全課 043-223-3816
- 東京湾岸自治体環境保全会議
令和6年度幹事 東京都環境局自然環境部水環境課 03-5388-3459
- 東京湾再生官民連携フォーラム
東京湾環境モニタリングの推進プロジェクトチーム 03-5157-5235

(2) 情報掲載先

東京湾環境一斉調査の報告書は東京湾環境一斉調査 WEB サイトに掲載しています。また、調査結果を分かり易くまとめた「東京湾環境 MAP」を国土技術政策総合研究所 WEB サイトにて掲載しています。

東京湾環境一斉調査の観測データは、東京湾環境情報センターから入手することができます。

- 東京湾環境一斉調査 WEB サイト
https://www.env.go.jp/water/heisa/tokyo_wqs.html
- 国土技術政策総合研究所 WEB サイト（東京湾環境マップと事例集に関する情報）
<https://www.ysk.nilim.go.jp/kakubu/engan/kaiyou/kaiyouDB.html>
- 東京湾環境情報センター（国土交通省関東地方整備局港湾空港部横浜港湾空港技術調査事務所）
<https://www.tbeic.go.jp/>

(参考)

- 東京湾再生推進会議 WEB サイト
https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KANKYO/TB_Renaissance/index.html